

海津市市民意識調査分析結果報告書

— 総合計画策定に向けた市民意識調査分析結果 —



平成 28 年 2 月

海 津 市

目次

1 アンケートの概要	1
2 分析結果	1
1) 回答者の性別、年齢等について（問 1～問 7）	2
2) 海津市での居住について（問 8～問 10）	5
3) 暮らしやすさの評価について（問 11）	12
4) 将来のまちづくりについて（問 12～問 25）	21

1 市民意識調査の概要

1) 目的

本調査は第2次海津市総合計画の策定にあたって、市民の施策全般に対する意識や要望等を把握するために実施。

2) 実施期間

平成27年10月23日（金）～11月6日（金）

但し、11月20日（金）までに本市に到着したものまでを有効としています。

3) 調査対象者

平成27年9月現在の住民基本台帳から無作為に抽出した、15歳以上の市民計3,000人

4) 回収状況

有効回答数 1,318 部（回収率 43.9%）

2 分析結果

結果の内容構成

1) 回答者の性別、年齢等について（問1～問7）

2) 海津市での居住について（問8～問10）

- ・回答者の性別、年齢等からみた集計（以下「クロス集計」という。）を含む。

3) 暮らしやすさの評価について（問11）

- ・40施策項目について、各施策の満足度及び重要度の平均ポイント、ニーズ得点を算出し、平成17年（以下「前回」という。）実施したアンケートの結果と比較

4) 将来のまちづくりについて（問12～問25）

- ・分野別の施策を回答割合の高い順に並べ、前回の調査から割合がアップしたものを明記（赤枠で囲った項目）

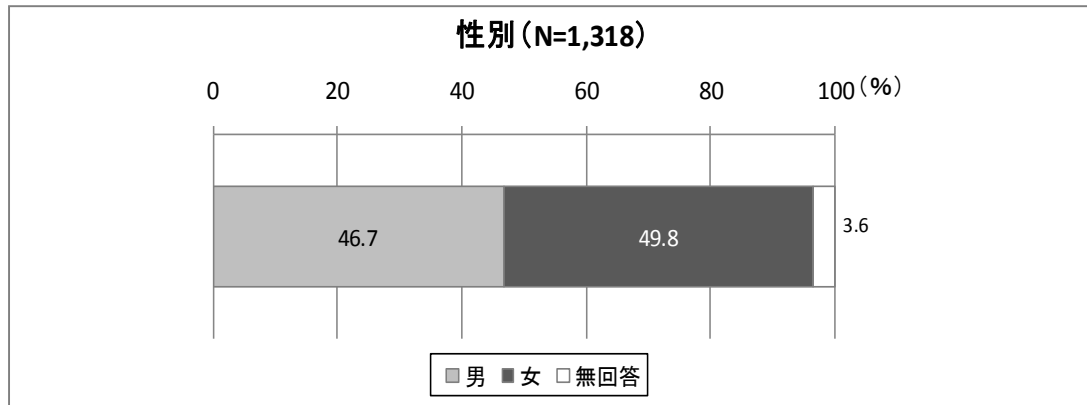
留意事項

- ・図中の％は端数処理をしているため、合計が100.0%にならないことがある。
- ・グラフの外枠の線が実線のものは単純集計、破線はクロス集計の結果である。
- ・複数回答の設問（問12～問25）において、単純集計のグラフは、全回答者数（1,318人）の中で、その選択肢を選んだ人の割合を示している。一方、クロス集計のグラフでは、各クロス項目（性別、年代、居住している町など）において、回答された全件数に対する割合を示している。

1) 回答者の性別、年齢等について

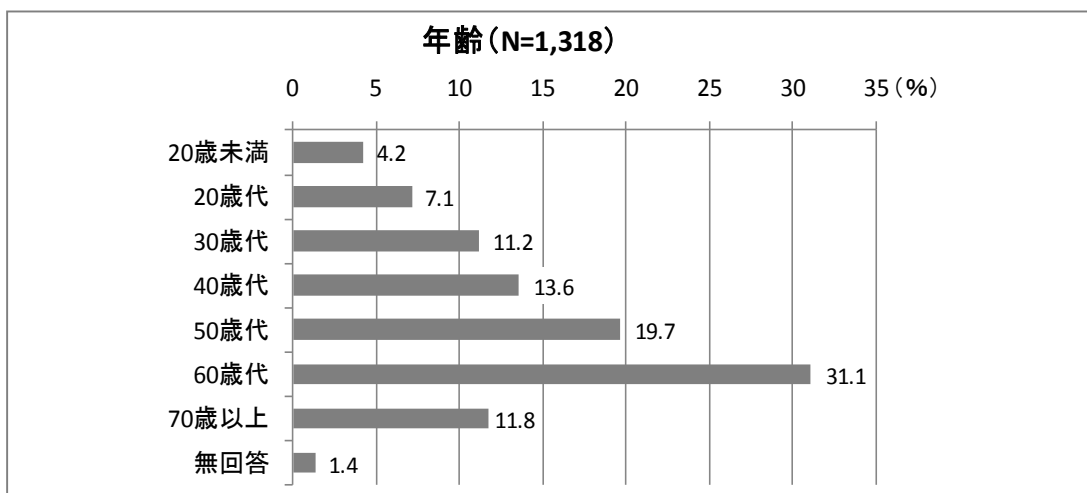
問1 性別

○回答者は女性（49.8%）が男性（46.7%）よりもわずかに多い。



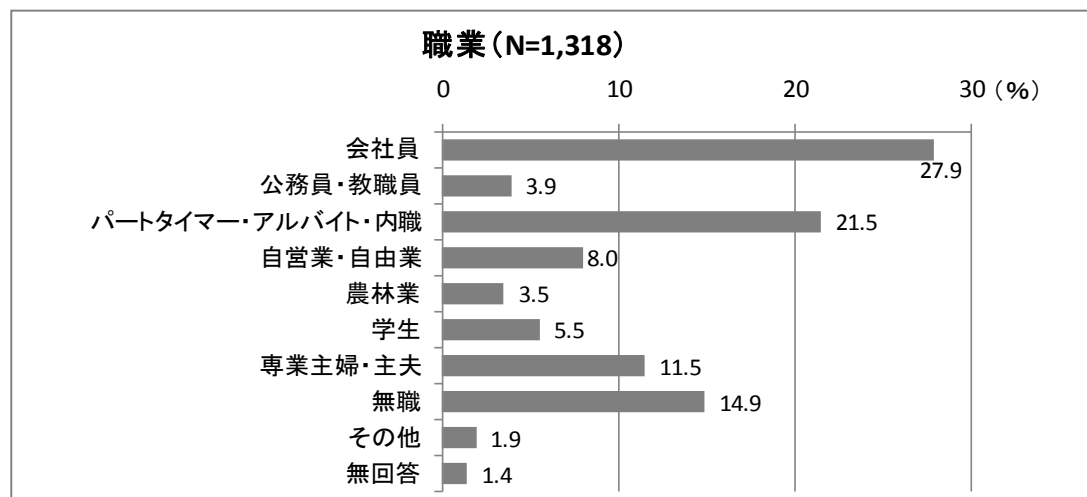
問2 年齢

○回答者は 60 歳代が 31.1% で最も多く、50 歳代が 19.7% で続いている。



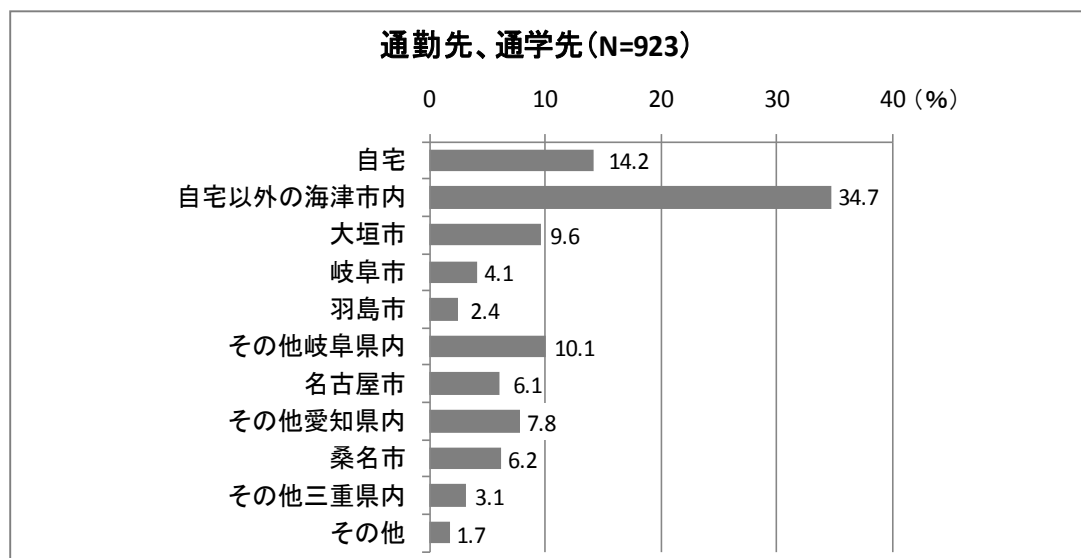
問3 職業

○職業は、会社員、パート・アルバイトなどが比較的多い。



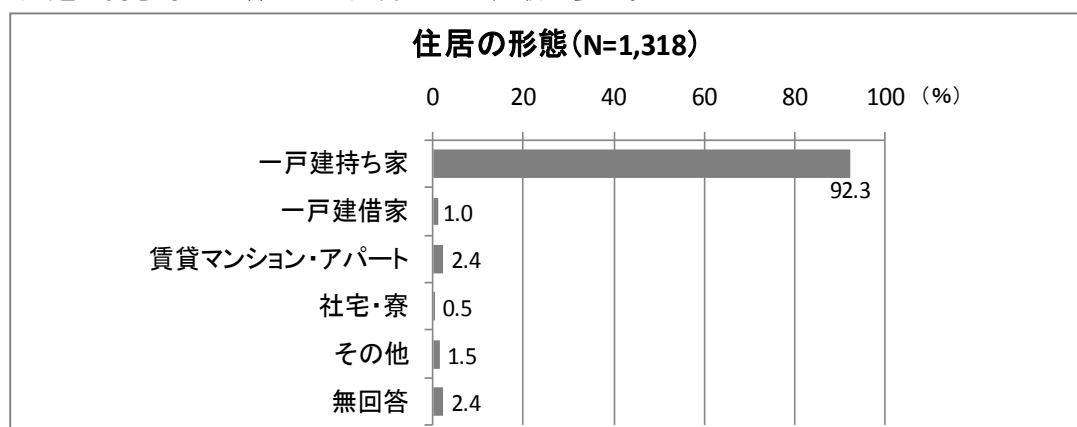
問 3-1 通勤・通学先

○通勤・通学先は、自宅以外の海津市内が 34.7%を占め、最多である。



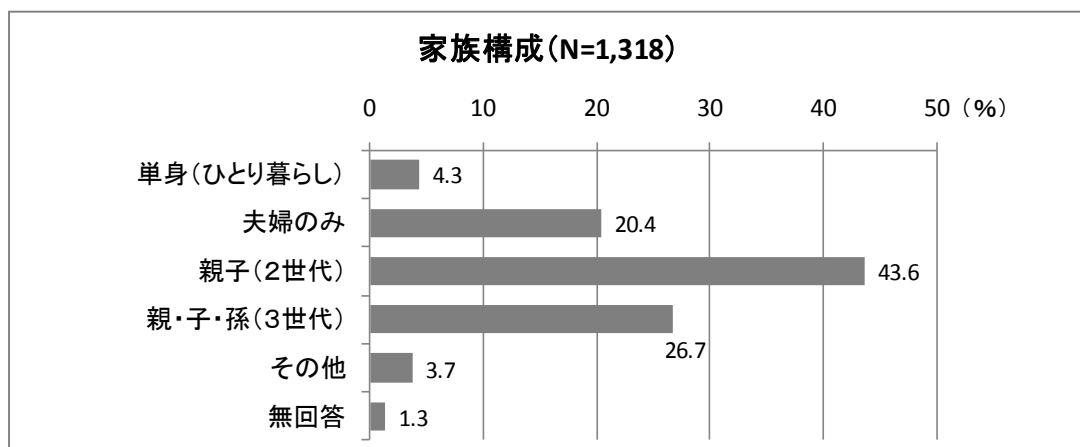
問 4 住居の形態

○住居は、一戸建て持ち家が全体の 92.3%を占め、最も多い。



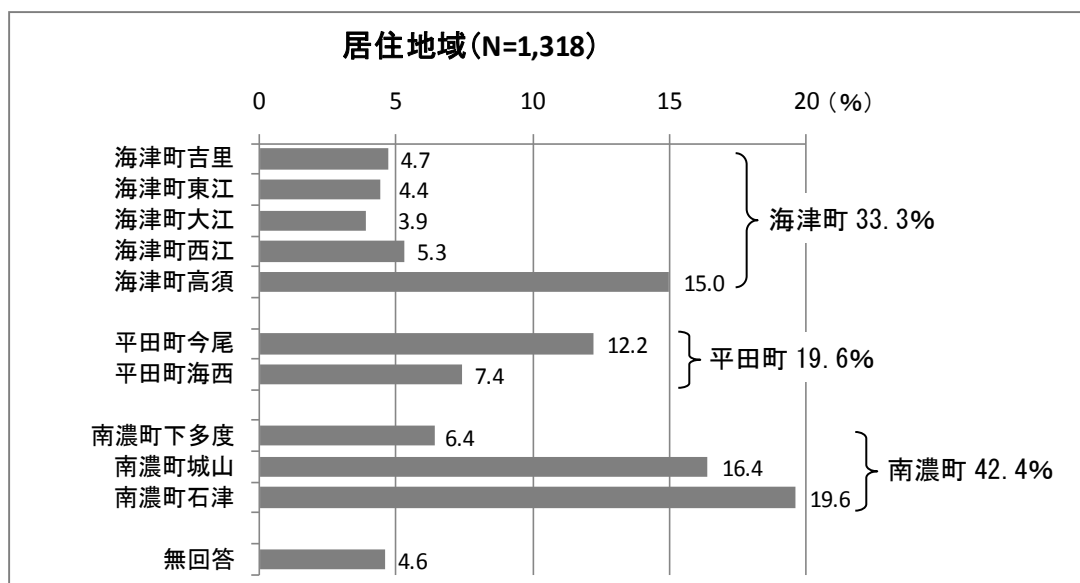
問 5 家族構成

○家族構成は親子（2世代）が 43.6%、親・子・孫（3世代）が 26.7%であり、両者で全体の約 7割を占めている。



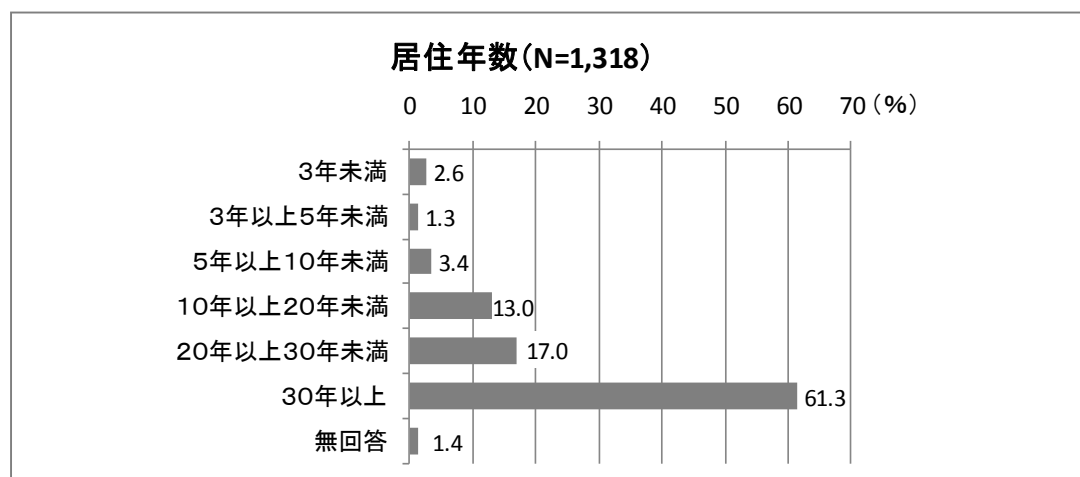
問6 住んでいる町と地区名

○回答者が住んでいる町（海津町、平田町、南濃町）の割合は、町別の人口比（H22 国勢調査：海津町 36.9%、平田町 20.3%、南濃町 42.8%）に近いものとなっている。



問7 海津市に住んでいる年数

○海津市に住んでいる年数は、30年以上が全体の約6割を占め、長年にわたって本市に居住している人が多い。



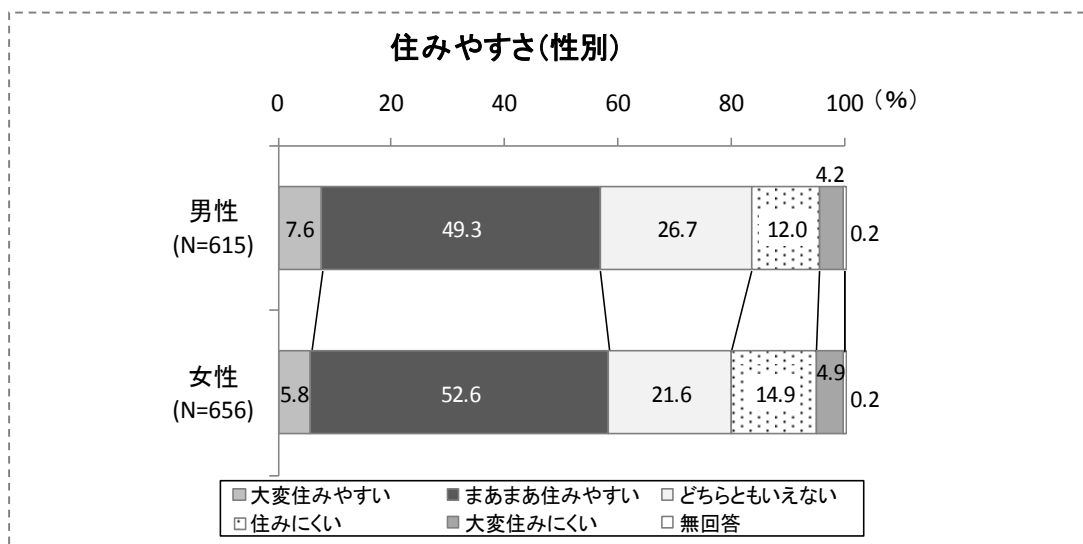
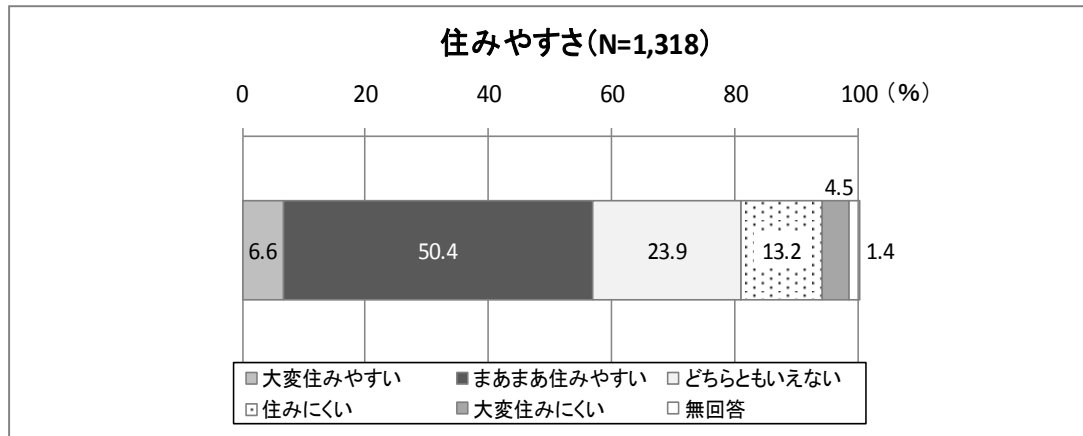
2) 海津市での居住について

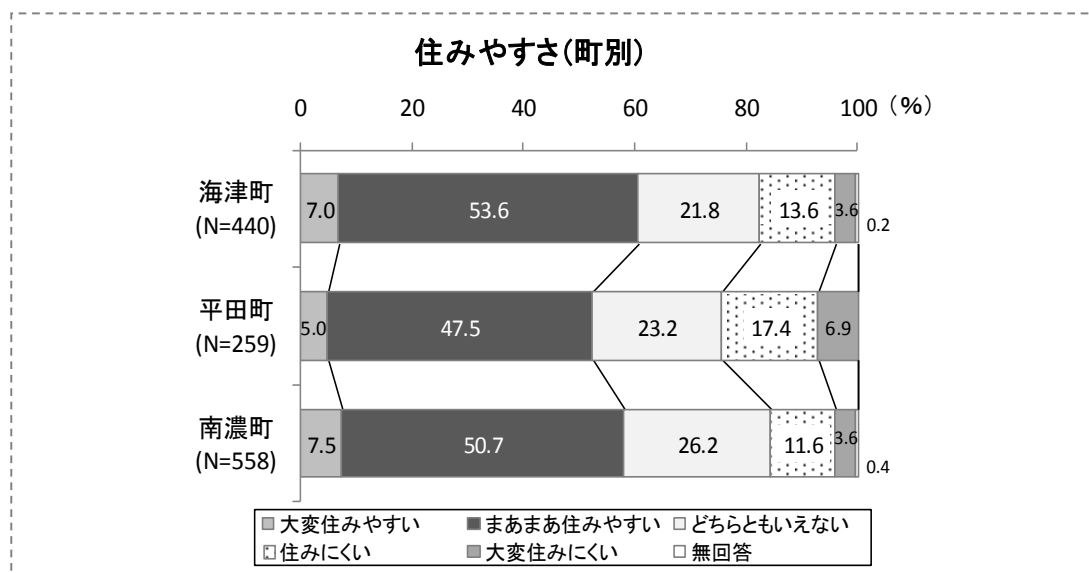
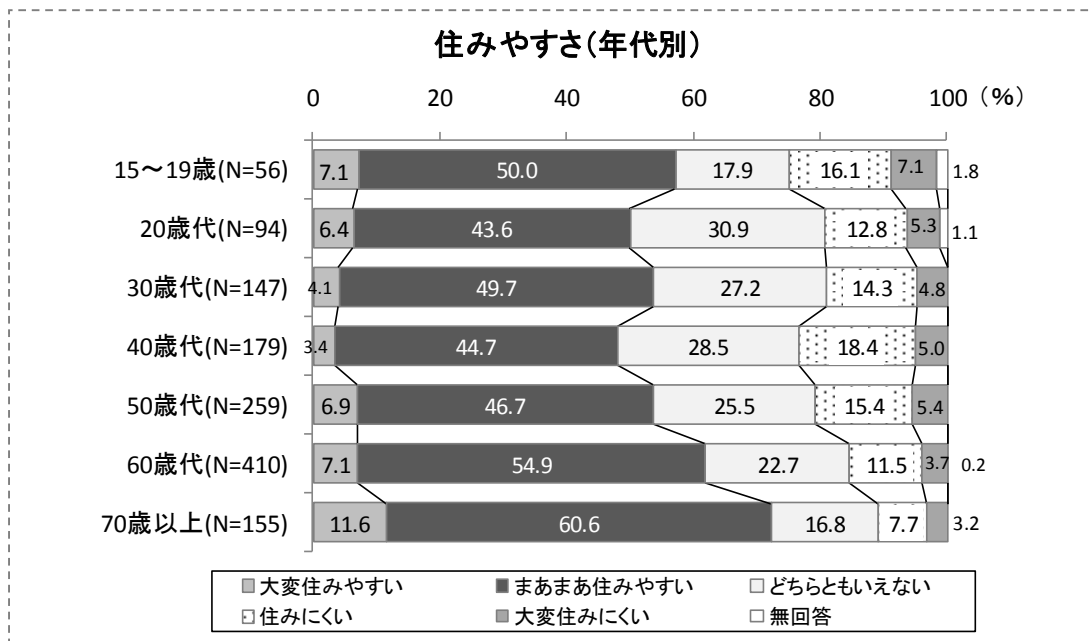
問8 海津市は住みやすいまちだと思いますか。

○「大変住みやすい」及び「まあまあ住みやすい」と回答した人が約6割を占めている。

○年代別では、高齢になるほど「住みやすい」と回答した人の割合が高い傾向がある。

○町別では、平田町において「住みにくい」と回答した人の割合が他の町より高い。



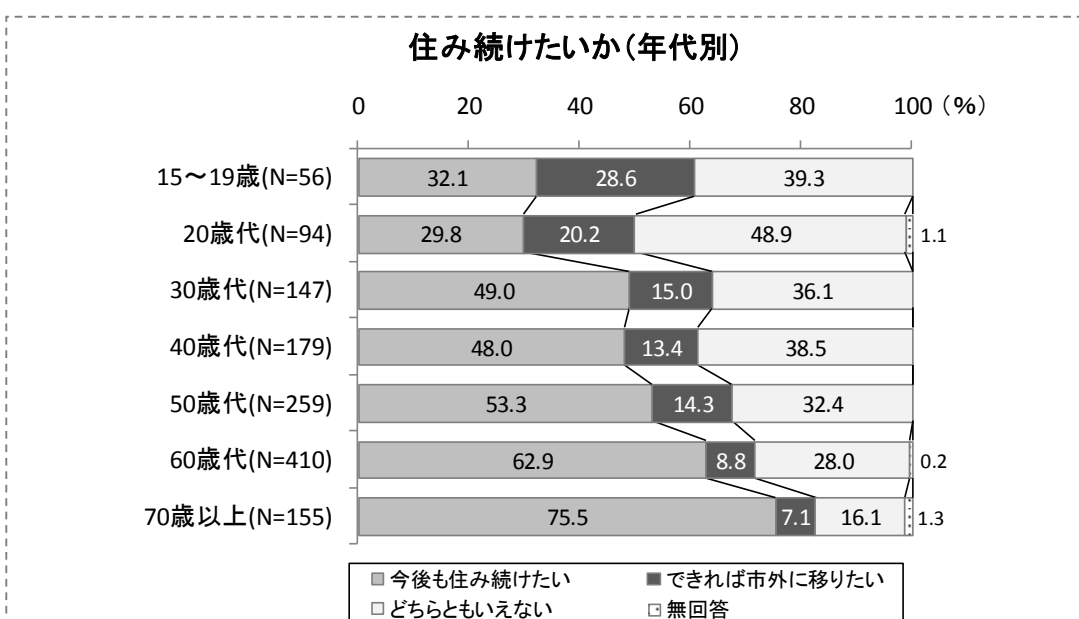
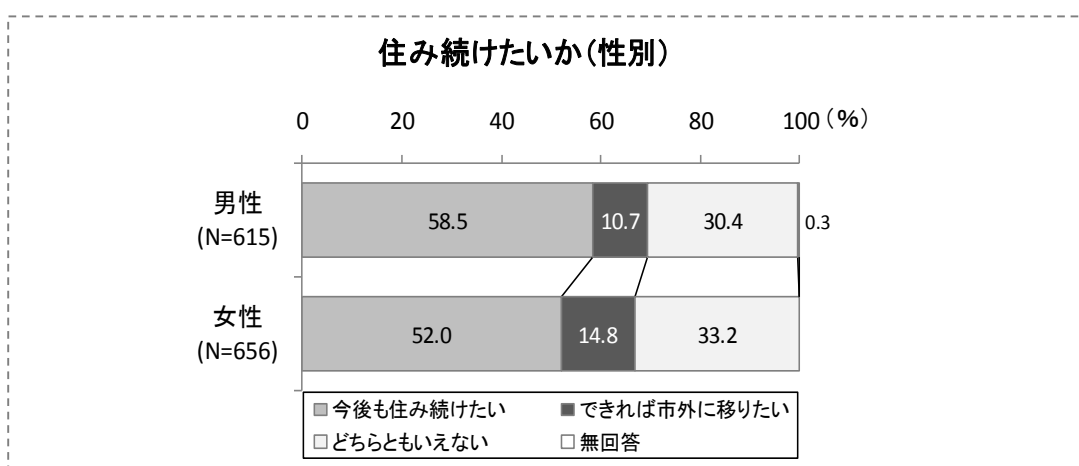
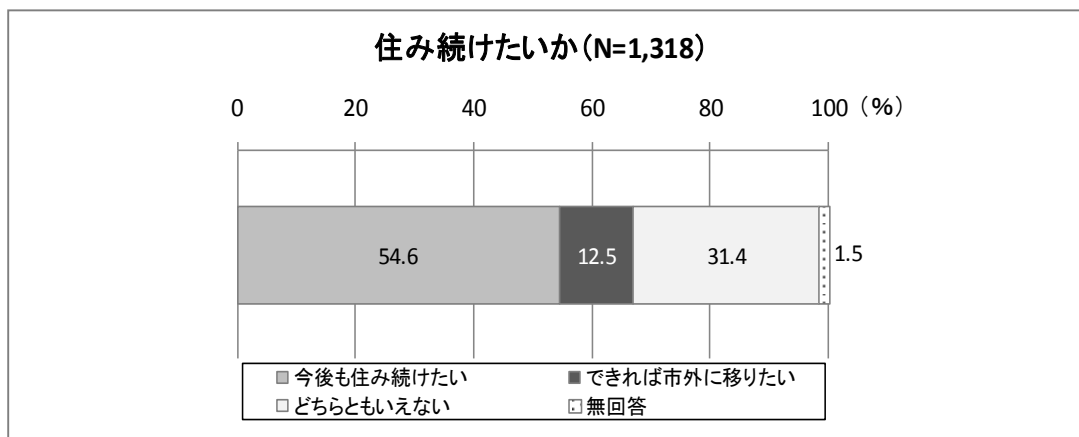


問9 今後も海津市に住みたいと思いますか。

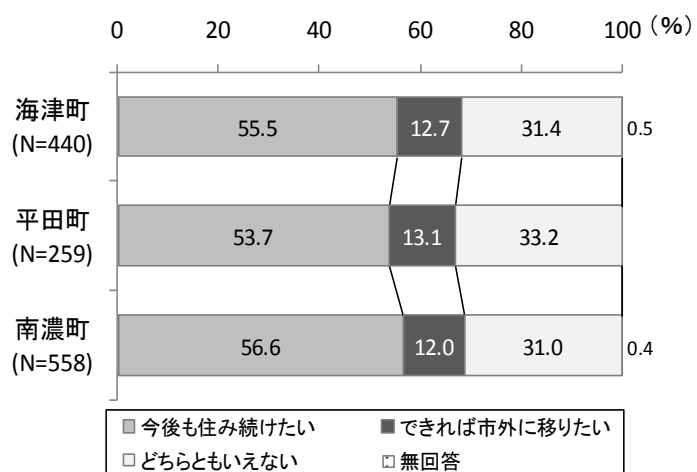
○「今後も住みたい」と回答した人が54.6%で過半数を占め、最も多かった。

○男性の方が女性より、「今後も住みたい」と回答した人の割合が高い。

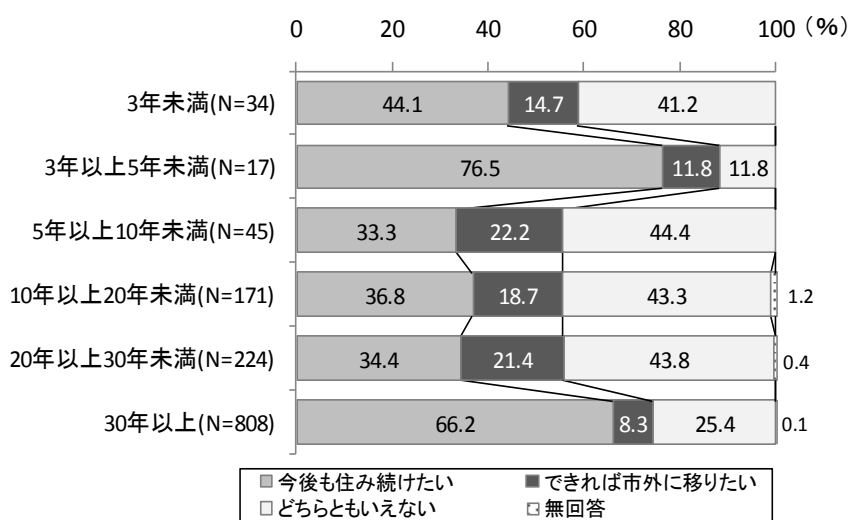
○高齢になるほど「今後も住みたい」と回答した人の割合が高い。



住み続けたいか(町別)



住み続けたいか(居住年数別)

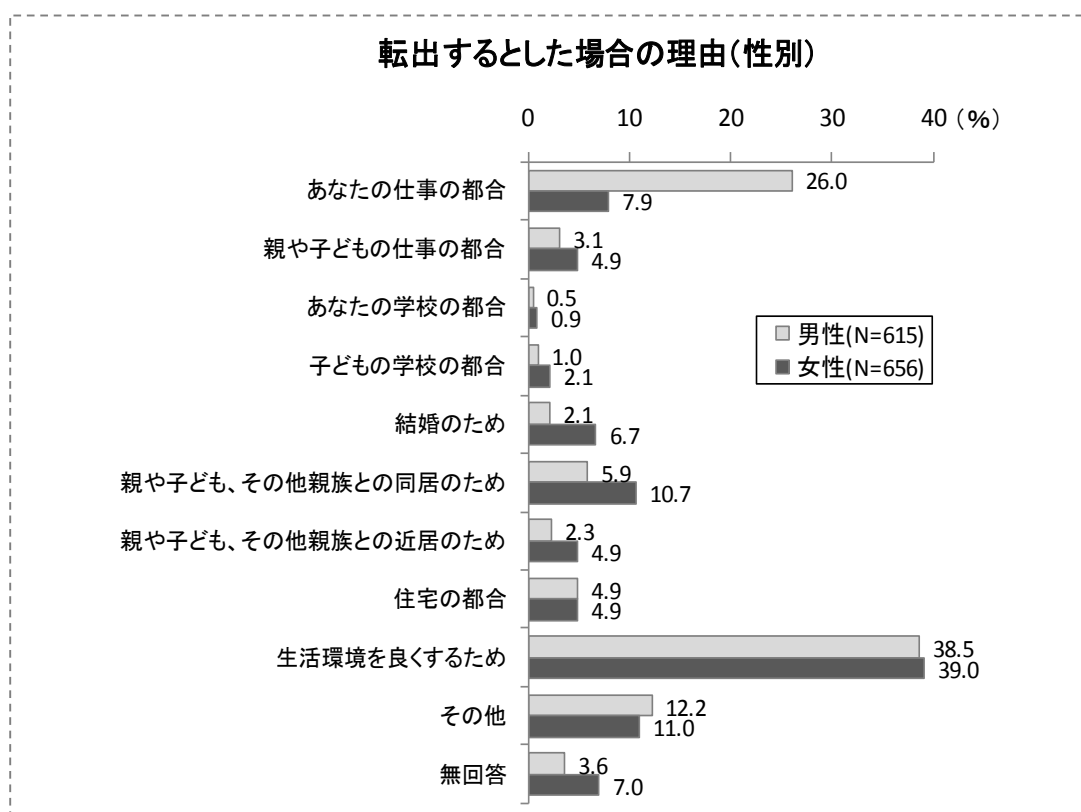
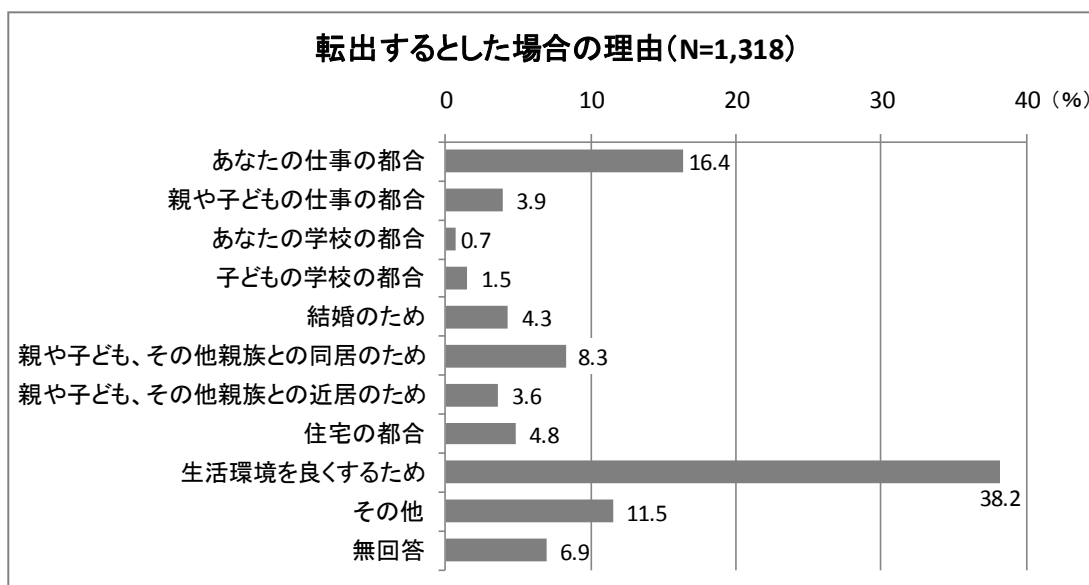


問 10 将来、もし海津市から転出するとしたら、その理由は何だと思えますか。

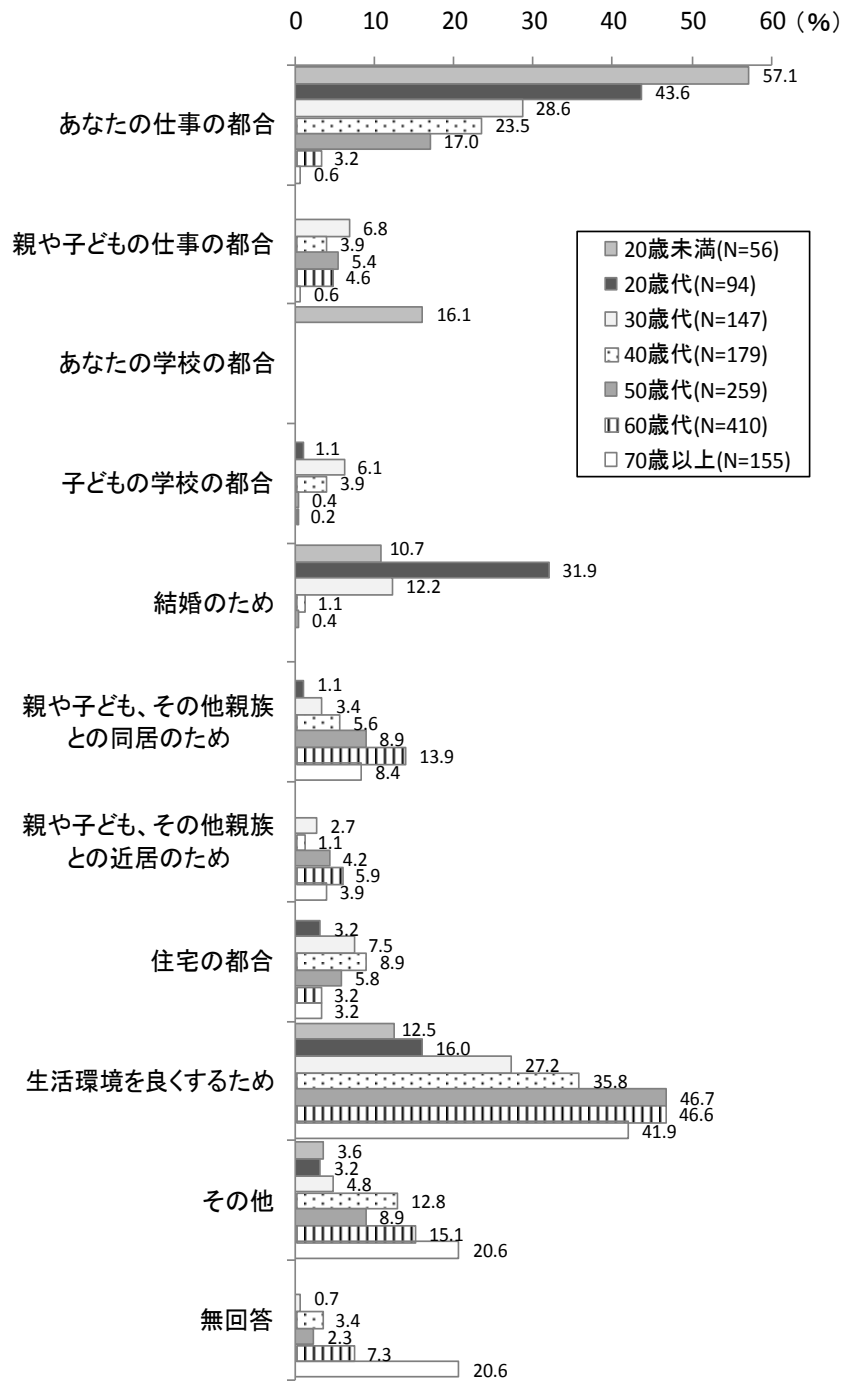
○海津市から転出するとした場合の理由として、「生活環境（交通や買い物の利便性・治安など）を良くするため」との回答が38.2%で最も多く、次いで「自分の仕事の都合」が16.4%であった。

○性別で差のある項目としては、「自分の仕事の都合（男26.0%、女7.9%）」、「結婚のため（女6.7%、男2.1%）」、「親や子ども、その他親族との同居のため（女10.7%、男5.9%）」が挙げられる。

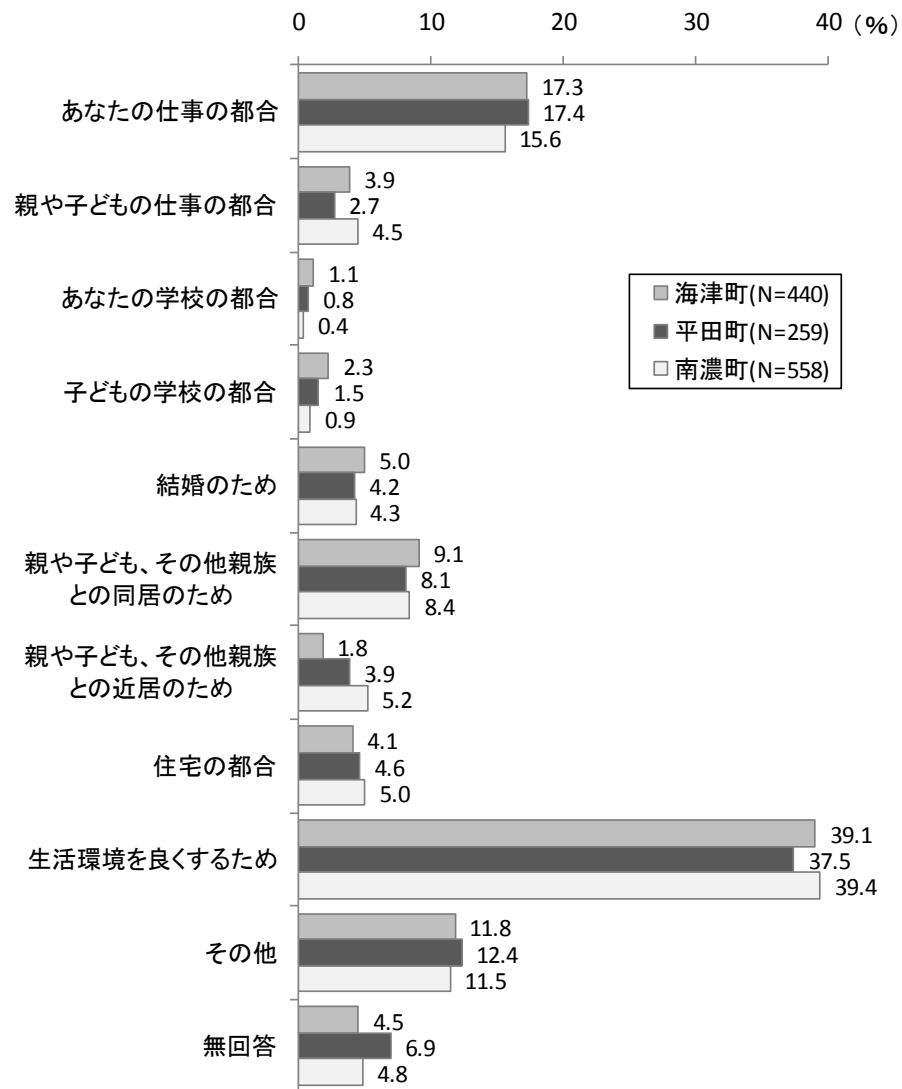
○若い世代ほど「自分の仕事の都合」を理由として挙げる人の割合が高い。また、高齢になるほど、「生活環境をよくするため」と回答する人の割合が高い。



転出するとした場合の理由(年代別)



転出するとした場合の理由(町別)

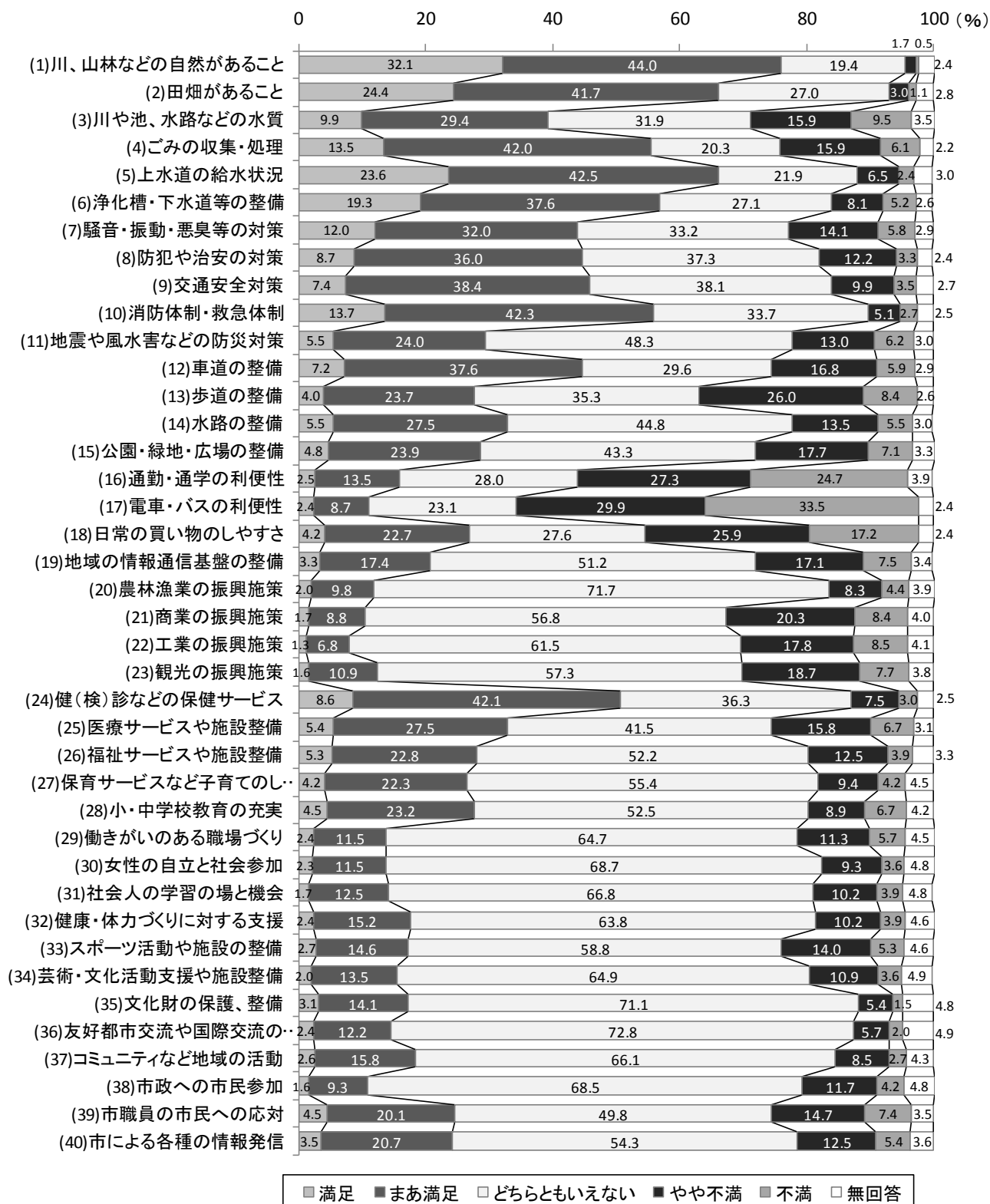


3) 暮らしやすさの評価について

問 1 1 お住まいの地区の環境や日常生活に関する(1)～(40)の各項目について、どの程度満足されていますか。また、どの程度重要と思われますか。各項目の満足度と重要度について、あなたの考えに最も近いものを選んでください。

○図は、各項目での満足度に関する回答割合を示している。

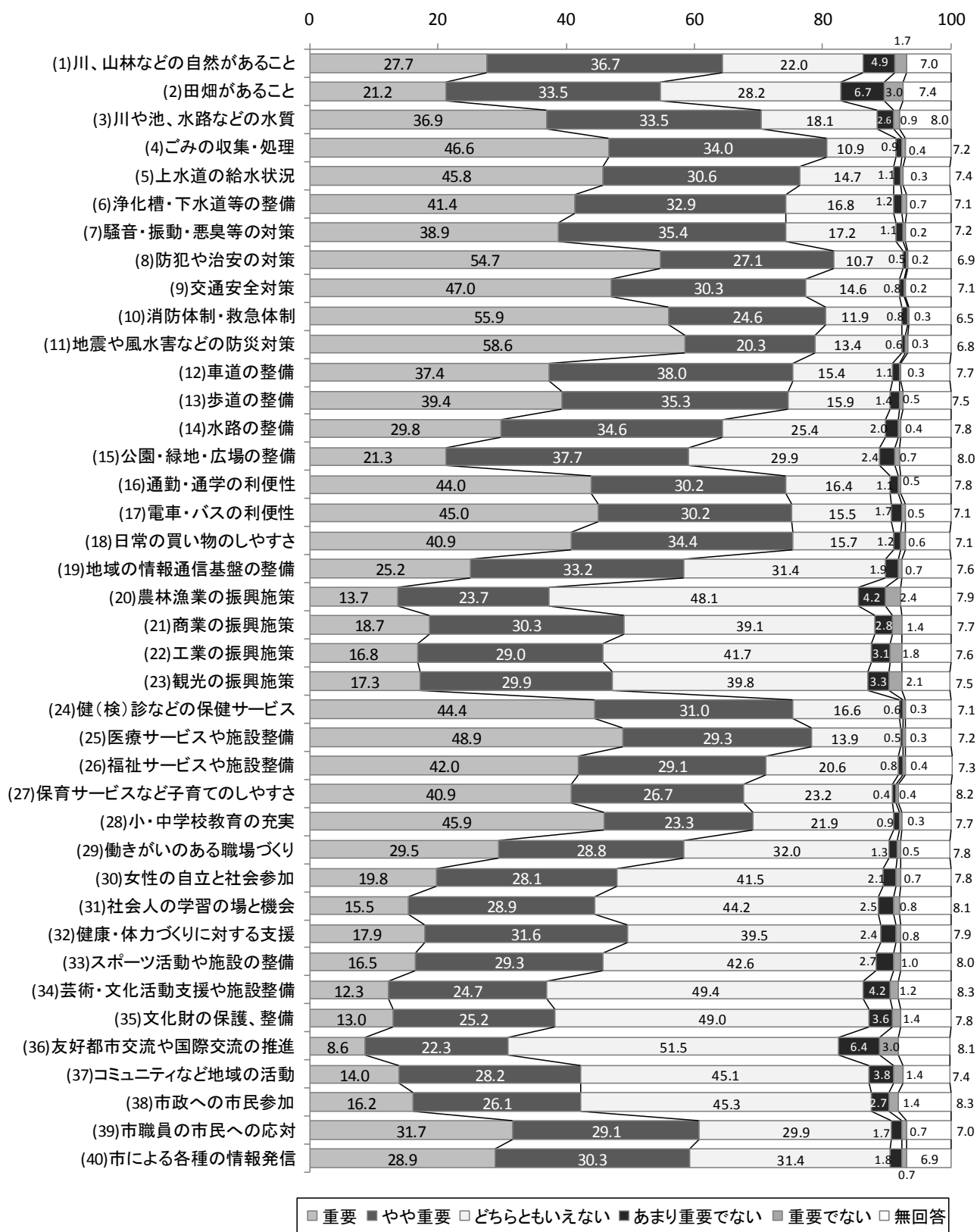
満足度に関する回答割合(N=1,318)



○図は、各項目での重要度に関する回答割合を示している。

重要度に関する回答割合(N=1,318)

(%)



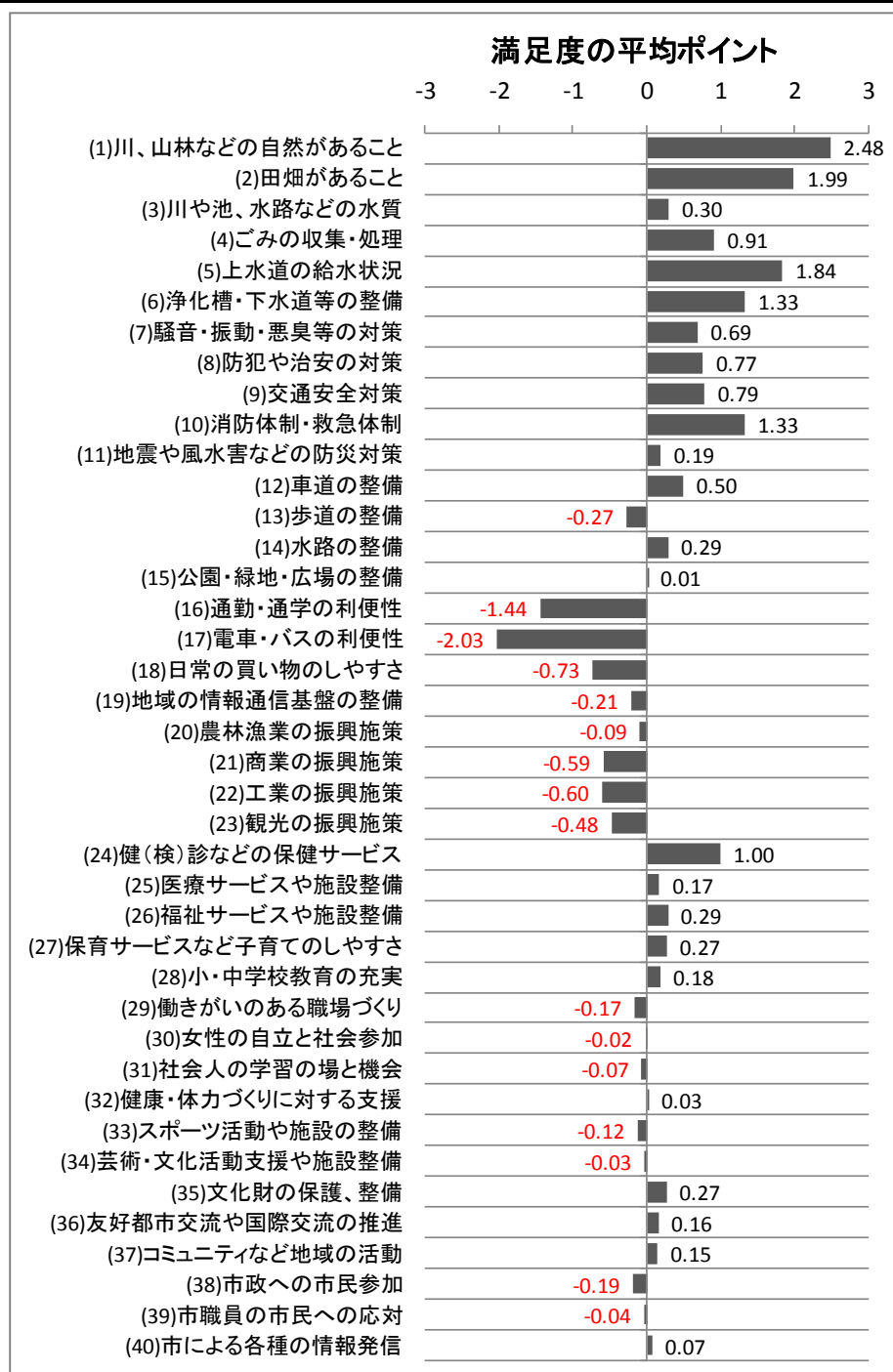
○前記の結果から、次の方法で、満足度及び重要度の「平均ポイント」を算出した。下の図は各項目での満足度の平均ポイント、次ページの図は重要度の平均ポイントを示したものである。

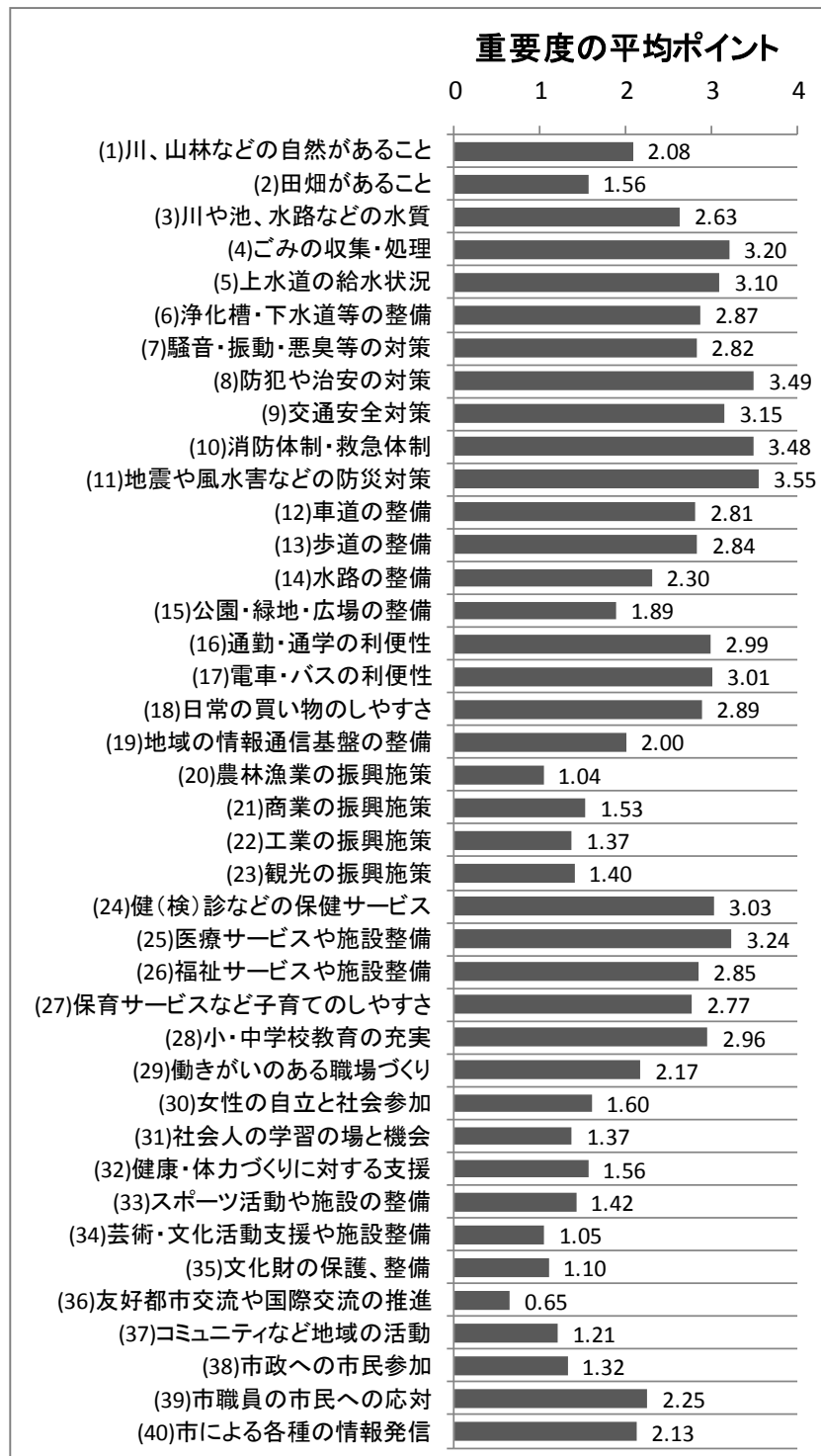
満足度	重要度	ポイント
満足	重要	+5 点
まあ満足	やや重要	+2 点
どちらともいえない	どちらともいえない	0 点
やや不満	あまり重要でない	-2 点
不満	重要でない	-5 点

【算出方法】 平均ポイント＝

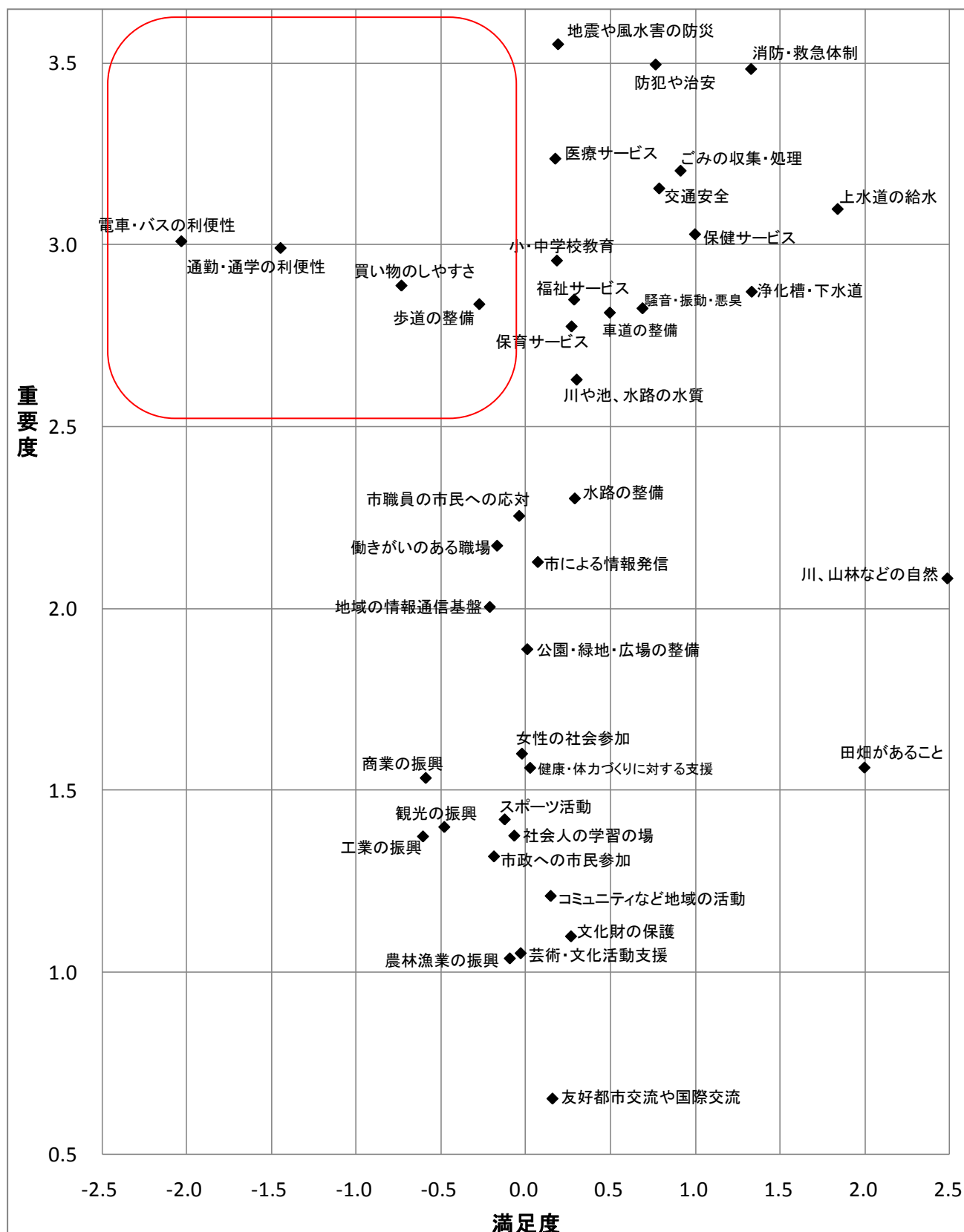
「満足/重要」×5＋「まあ満足/やや重要」×2＋「やや不満/あまり重要でない」×（－2）＋「不満/重要でない」×（－5）

回答者数（人）



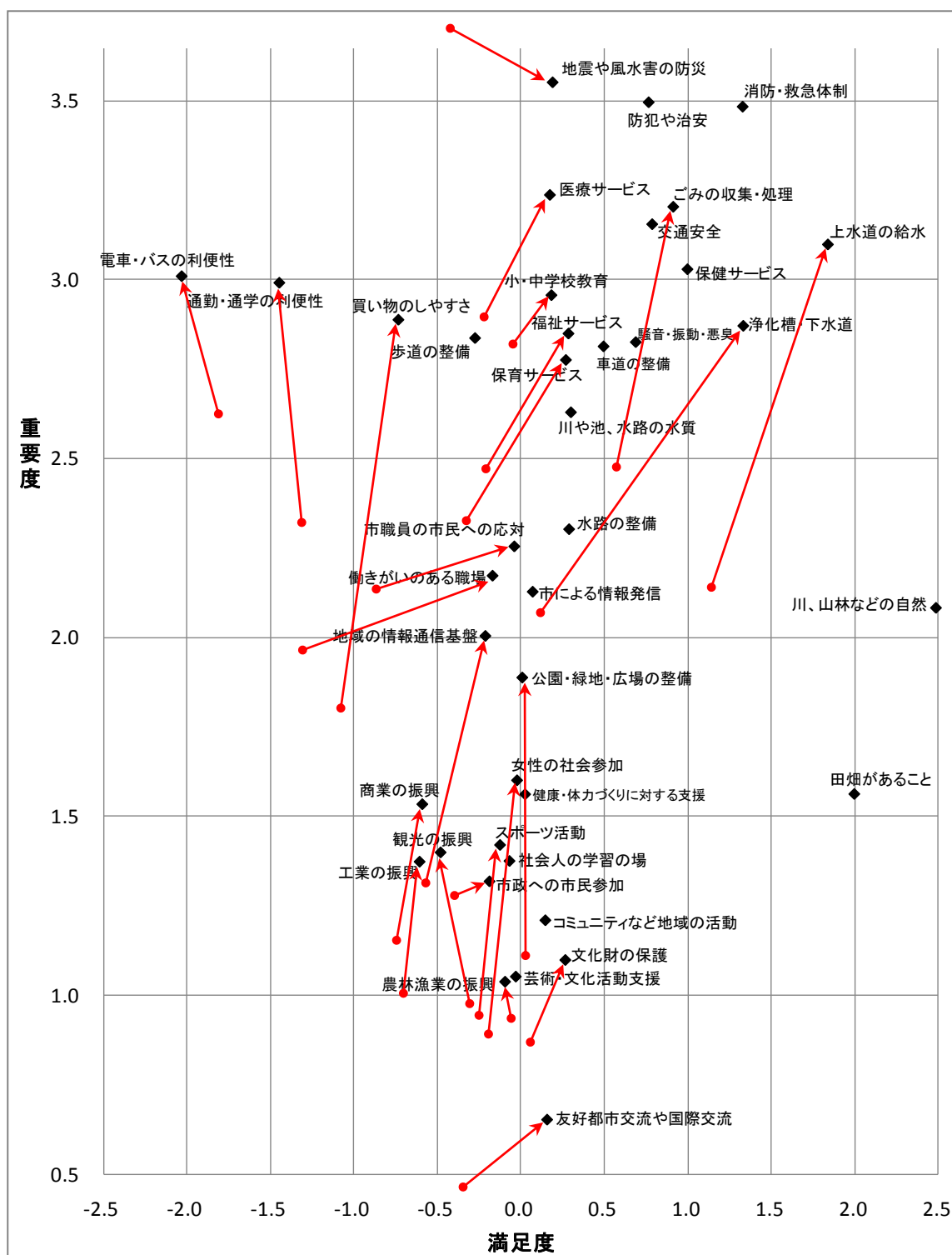


○満足度及び重要度の平均ポイントを両軸にした、各施策項目の散布図を示す。この中で、「重要度が高く、満足度が低いもの（赤枠内など）」は、優先すべき課題と考えられ、「電車・バスの利便性」「通勤・通学の利便性」「買い物のしやすさ」「歩道の整備」などが該当する。



○前回実施したアンケート結果をもとに、満足度及び重要度がどのように変化したかを図にした。今回と前回の調査で、施策項目で一对一の対応関係がつけられるものについて、赤の矢印でその変化を表現している（赤丸●は前回の値）。

○今回、満足度の平均値※は前回調査より上昇している状況がある中で、「電車・バスの利便性」「通勤・通学の利便性」の満足度などは低下している。



施策別の重要度と満足度、および前回アンケート値（●）からの主な変化

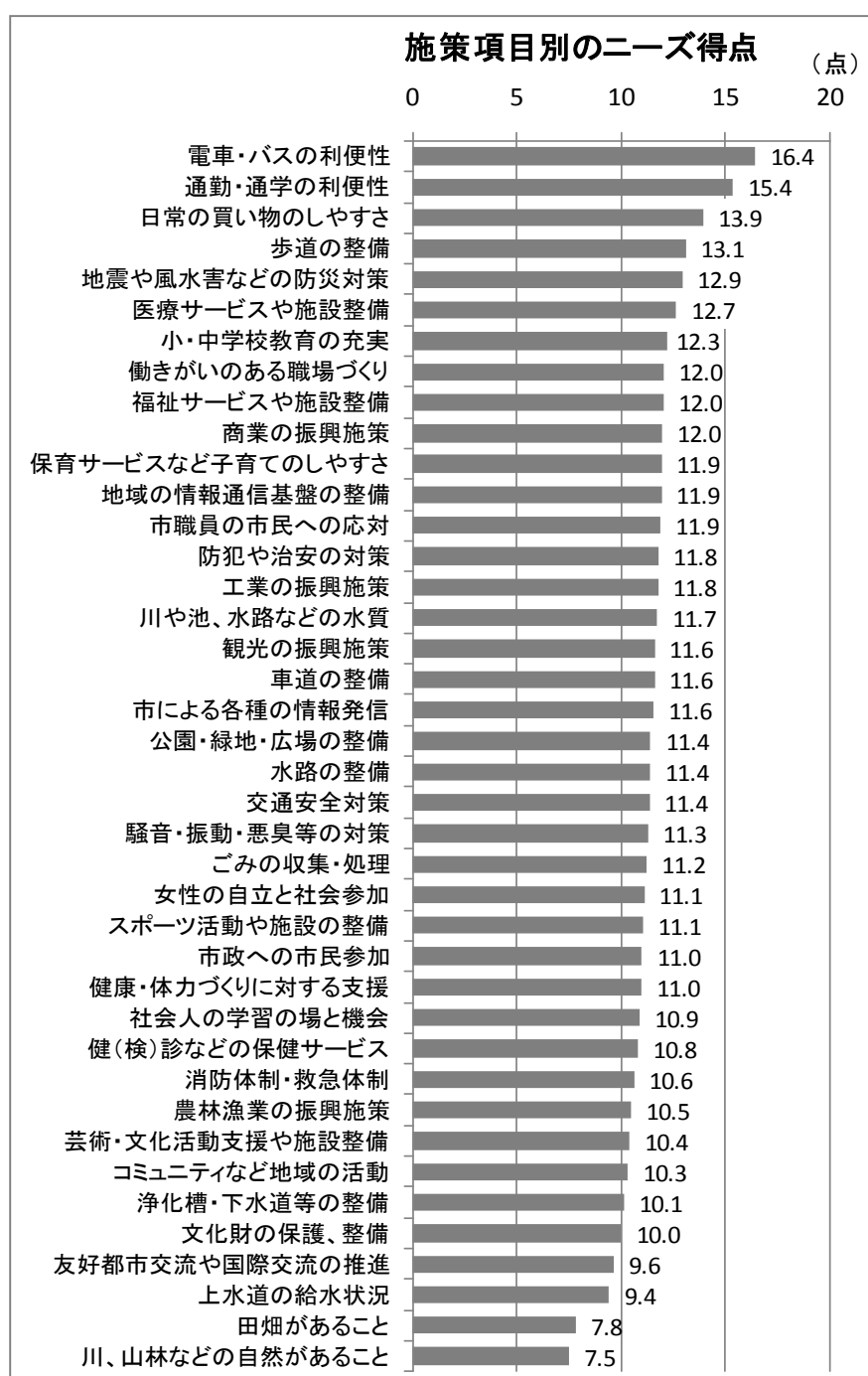
※平成 27 年アンケートの満足度の平均値は 0.22、重要度の平均値は 2.27 で、前回の満足度の平均値は -0.26、重要度は 1.80 であり、それぞれの平均値は 0.48 及び 0.47 アップしている。

○前記の満足度と重要度から、次の方法で「ニーズ得点」を算出し、各施策に対する市民のニーズについて分析した。この算出方法では、重要度が高く、満足していない項目ほど、ニーズ得点が高くなる設定としている。

満足度の得点		重要度の得点	
満足	5点	重要	5点
まあ満足	4点	やや重要	4点
どちらともいえない	3点	どちらともいえない	3点
やや不満	2点	あまり重要でない	2点
不満	1点	重要でない	1点

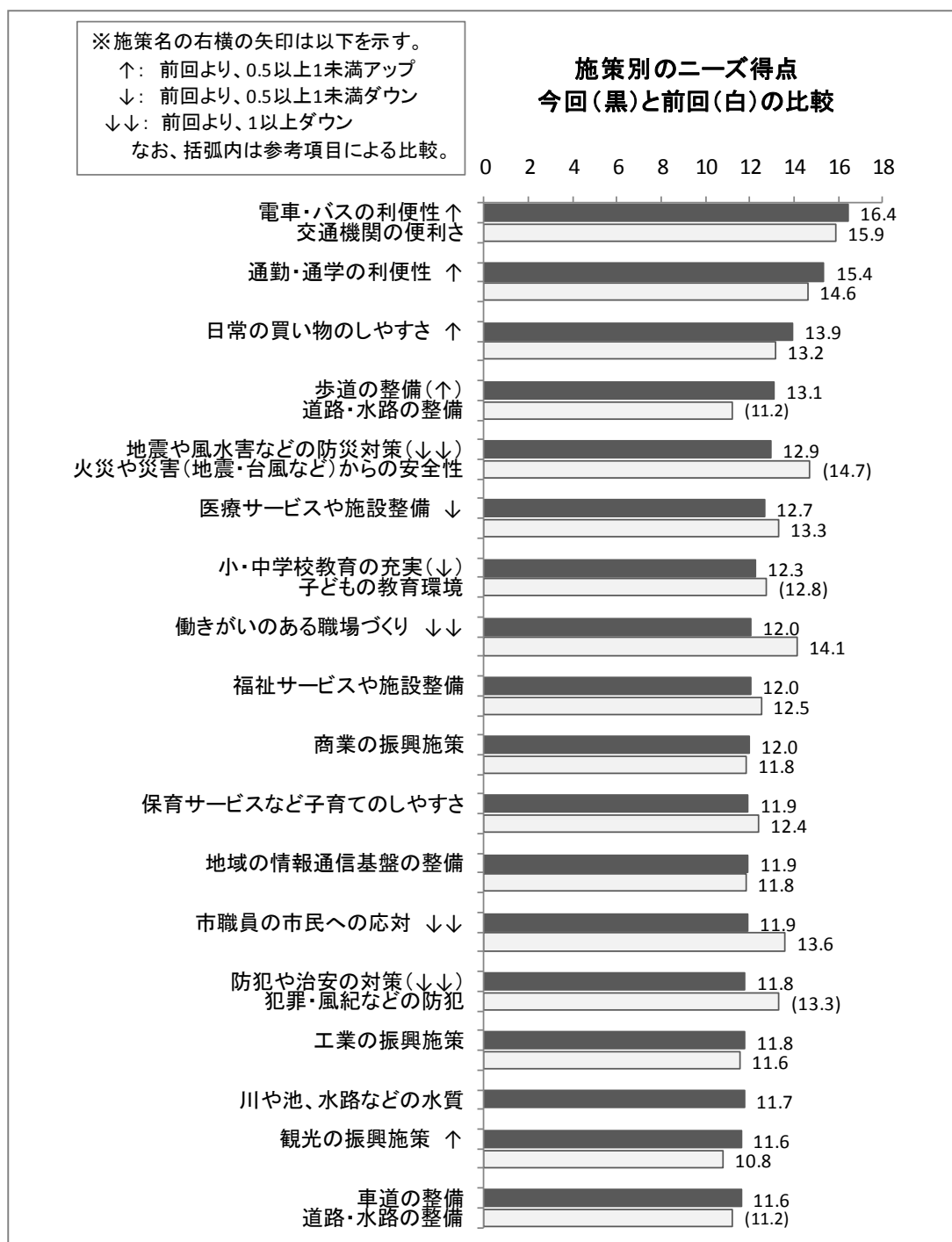
【算出方法】

$$\text{ニーズ得点} = \text{重要度の得点} \times (6 - \text{満足度の得点})$$



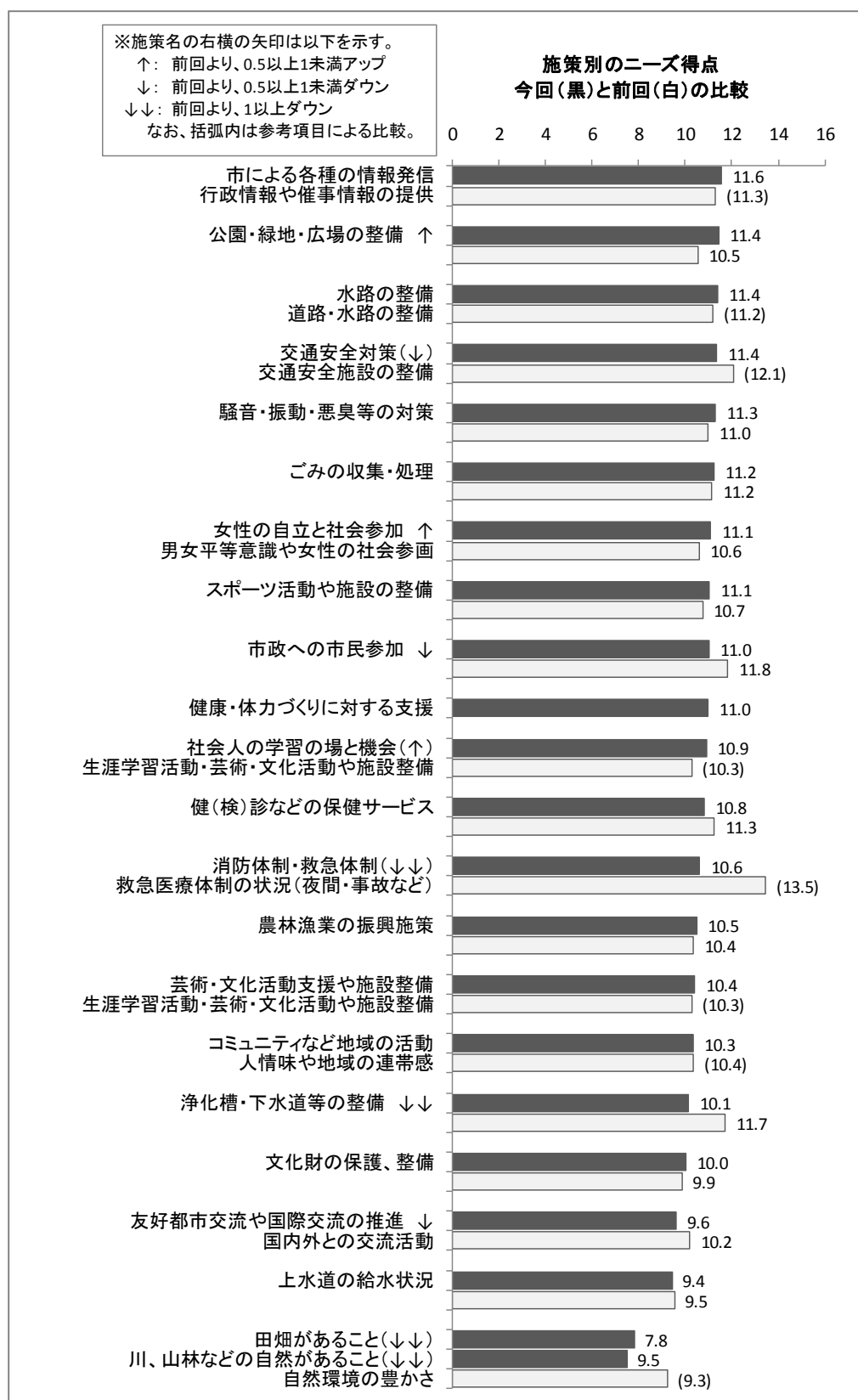
○前記のニーズ得点を、前回の調査時と比較し、項目としてほぼ対応できるものについて図化した（下図と次ページの続きの図）。ニーズ得点が前回よりアップした主な項目は、「電車・バスの利便性」「通勤・通学の利便性」「日常の買い物のしやすさ」「観光の振興施策」「公園・緑地・広場の整備」「女性の自立と社会参加」などである。

○一方、ニーズ得点がダウンした項目として、「働きがいのある職場づくり」「市職員の市民への対応」「防犯や治安の対策」「浄化槽・下水道等の整備」などがある。



（次ページに続く）

(前ページからの続き)



4) 将来のまちづくりについて（問 12～問 25）

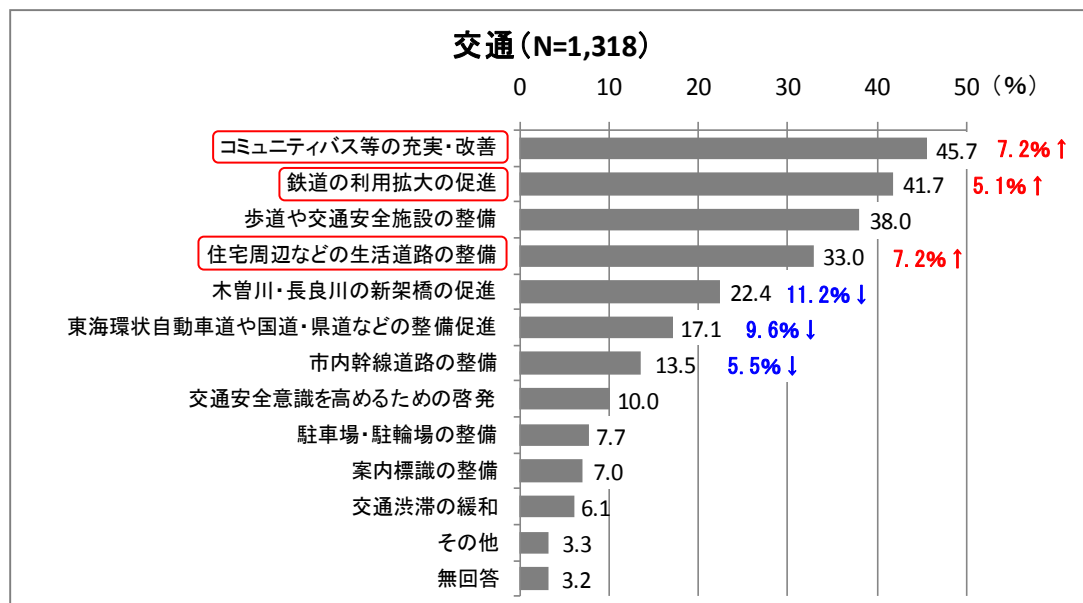
今後どのようなことに力を入れる必要があると思いますか。（回答は3つ以内の複数回答）

図中、**赤枠**で囲った項目は、前回の調査時より割合が高くなったもの、あるいは今回新たに加えた項目で割合が高いものである。**二重の赤線枠**は、前回よりも割合が10%以上高くなったものであり、**一重の赤線枠**は、前回よりも割合が5.0%～10%未満高まったもの、あるいは今回新たに加えた項目で割合が高いものである。各設問で上位にある施策は重要なものといえるが、赤枠で囲った施策は最近、重視されていると考えられるものである（**赤字**で各棒の右端に↑）。

一方、前回よりも5.0%以上割合が低下したものである（**青字**で各棒の右端に↓）。

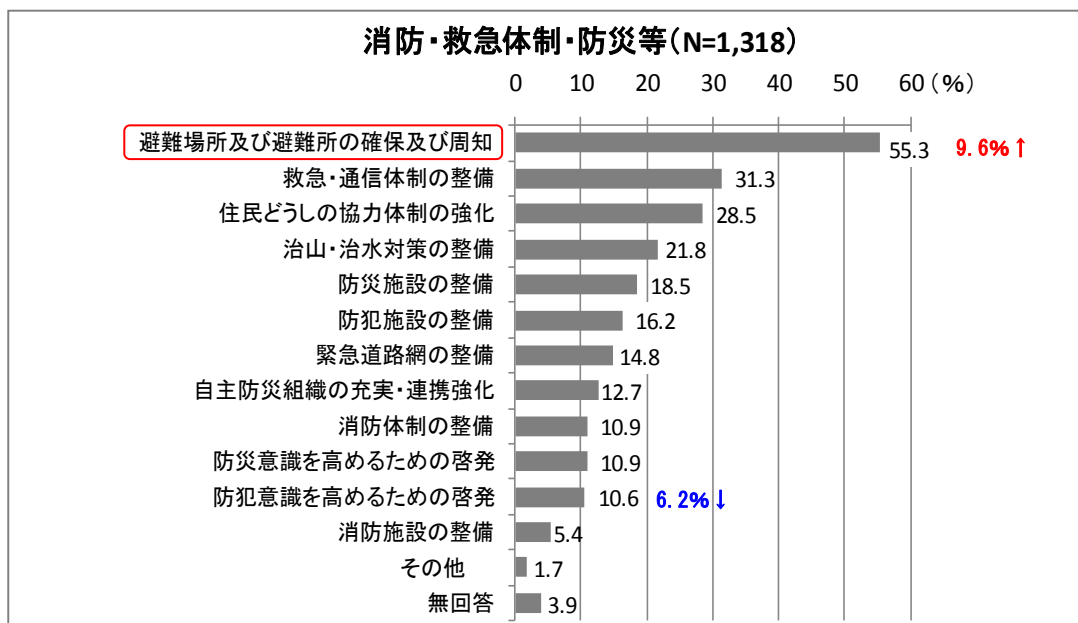
問 12 交通に関する施策

○コミュニティバス等の充実・改善、鉄道の利用拡大の促進、歩道や交通安全施設の整備、住宅周辺などの生活道路の整備が重視されている。



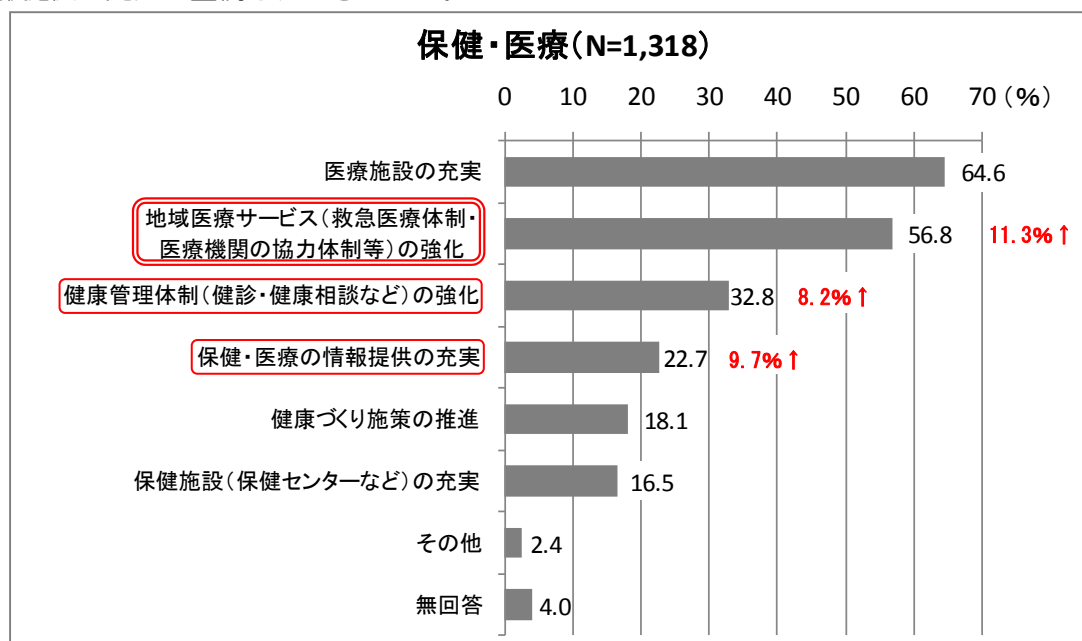
問 13 消防・救急体制、防災等に関する施策

○避難場所及び避難所の確保及び周知が、最も重視されている。



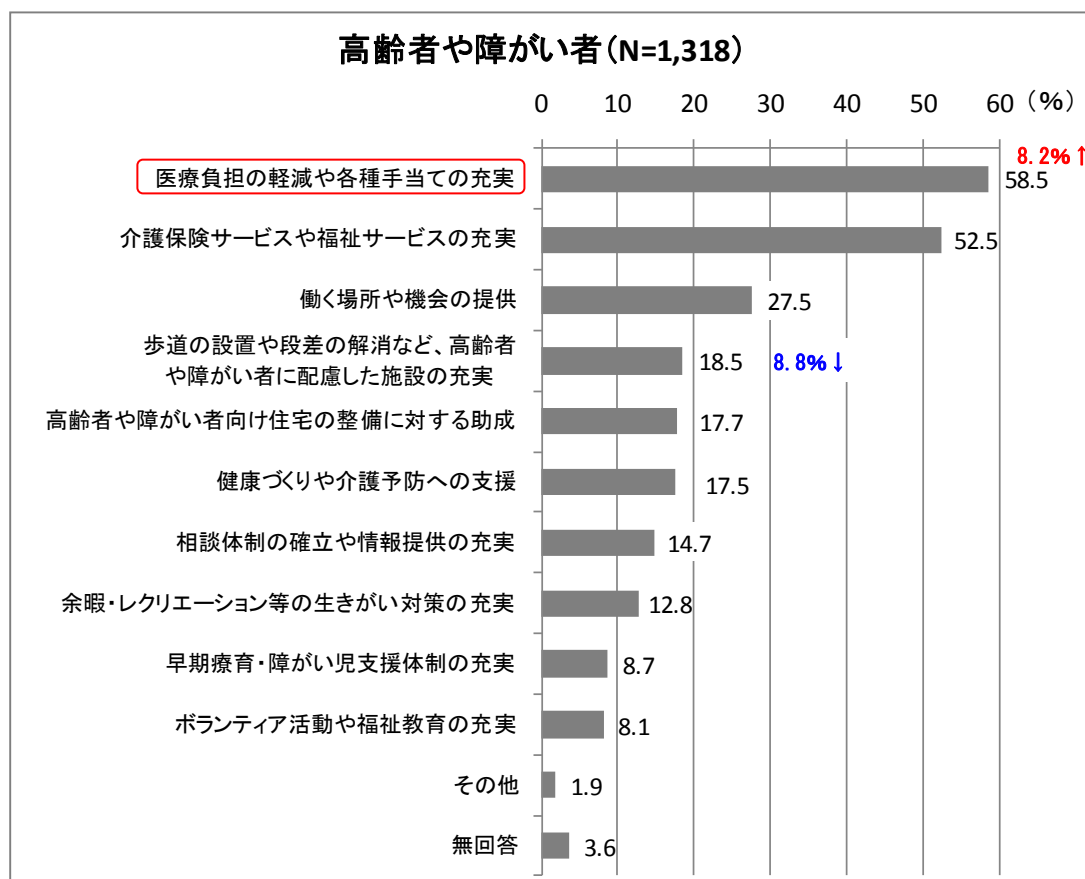
問 14 保健・医療に関する施策

○医療施設の充実はもちろんのこととして、最近は地域医療サービスや健康管理体制の強化、保健・医療の情報提供の充実が重視されてきている。



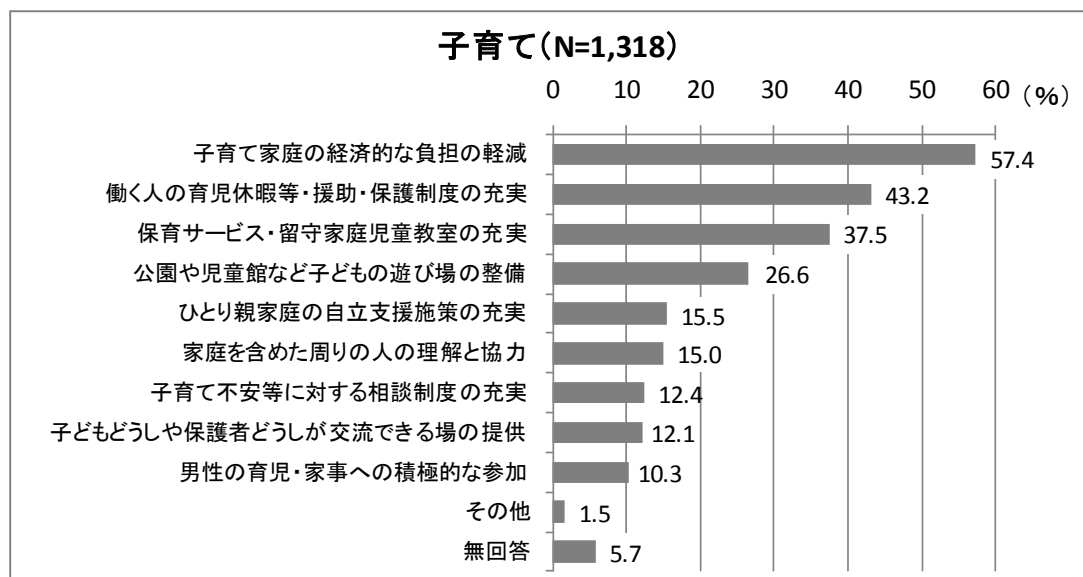
問 15 高齢者や障がい者に関する施策

○医療負担の軽減や各種手当の充実、介護保険サービスや福祉サービスの充実などが重視されている。



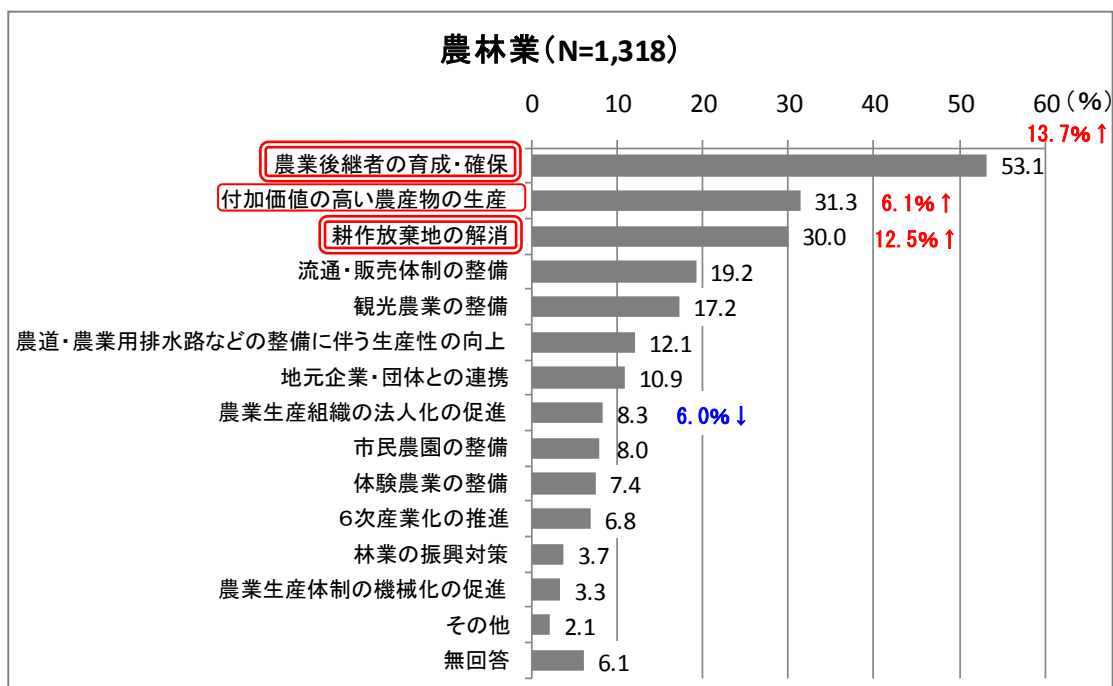
問 16 子育てに関する施策

○子育て家庭の経済的な負担の軽減、働く人の育児休暇等・援助・保護制度の充実などが重視されている。



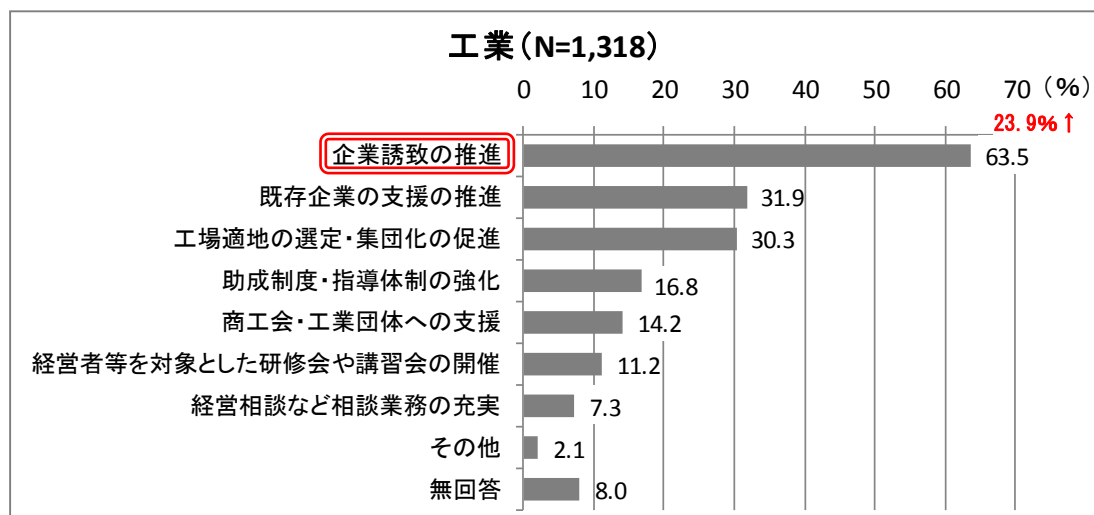
問 17 農林業に関する施策

○農業後継者の育成・確保、付加価値の高い農産物の生産、耕作放棄地の解消が非常に重視されてきている。



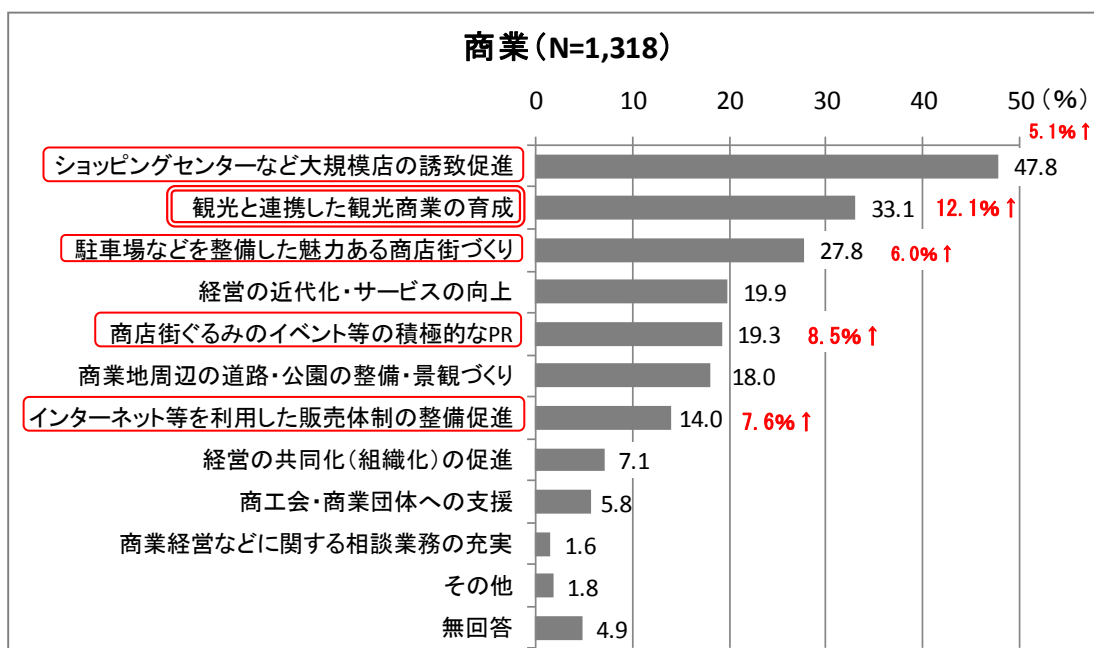
問 18 工業に関する施策

○企業誘致の推進が非常に重視されてきている。



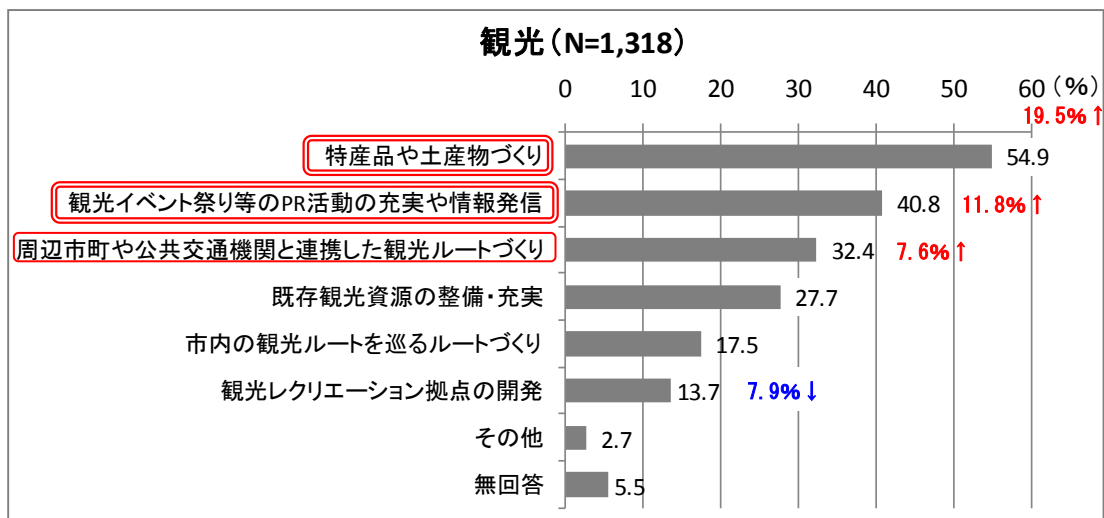
問 19 商業に関する施策

○前回時から回答割合が高まっている項目が多く、特に観光と連携した観光商業の育成や、商店街ぐるみのイベント等の積極的なPRなどが最近重視されてきている。



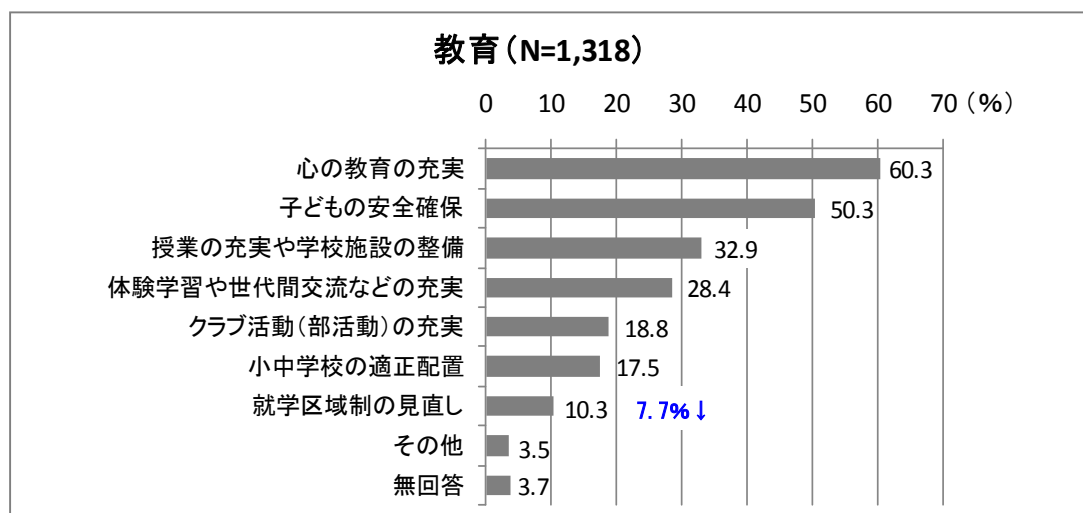
問 20 観光に関する施策

○特産品や土産物づくり、観光イベント祭り等のPR活動の充実や情報発信、周辺市町や公共交通機関と連携した観光ルートづくりなどの重要性が認識されてきている。



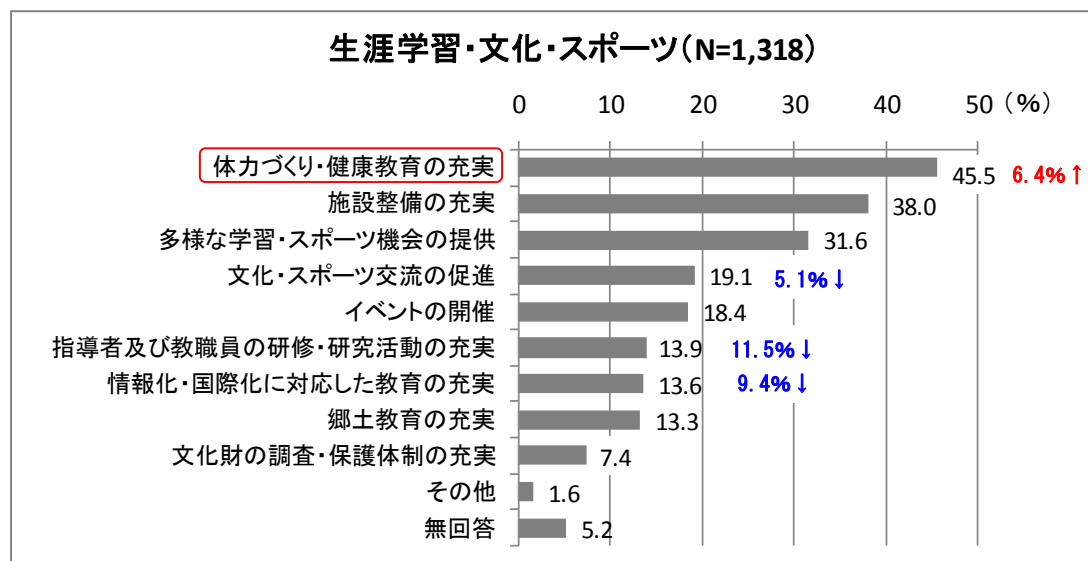
問 21 教育に関する施策

○心の教育の充実や、子どもの安全確保などが重視されている。



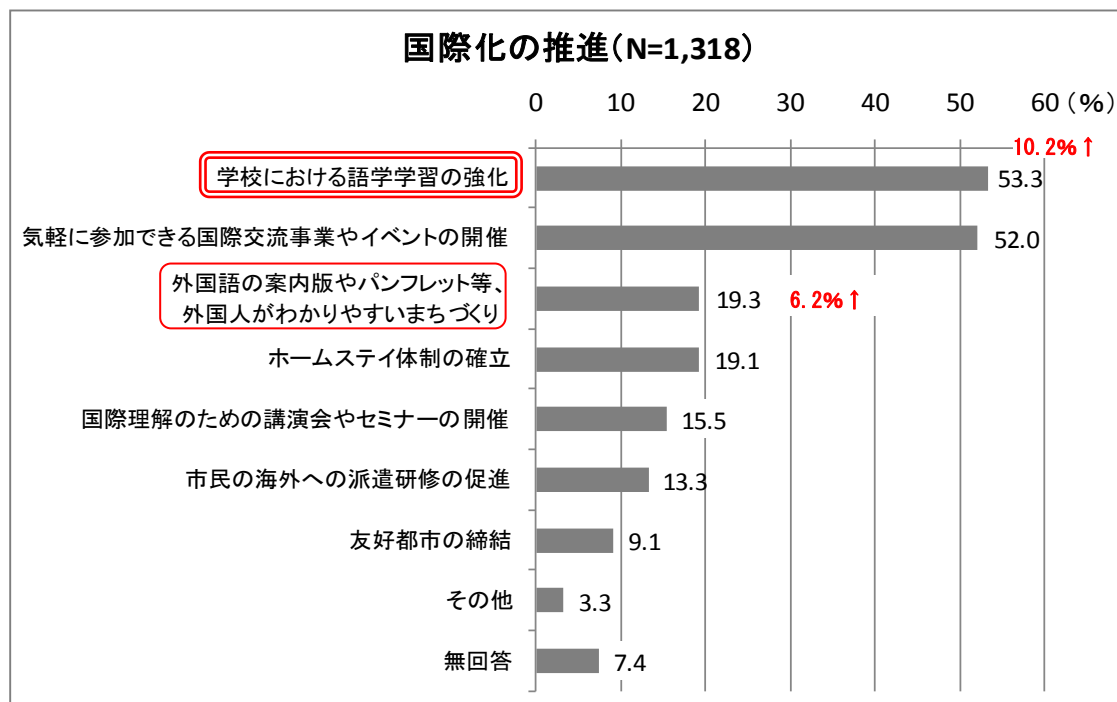
問 22 生涯学習・文化・スポーツに関する施策

○体力づくり・健康教育の充実、施設整備の充実など、ソフト・ハード両面の整備が期待されている。



問 23 国際化の推進に関する施策

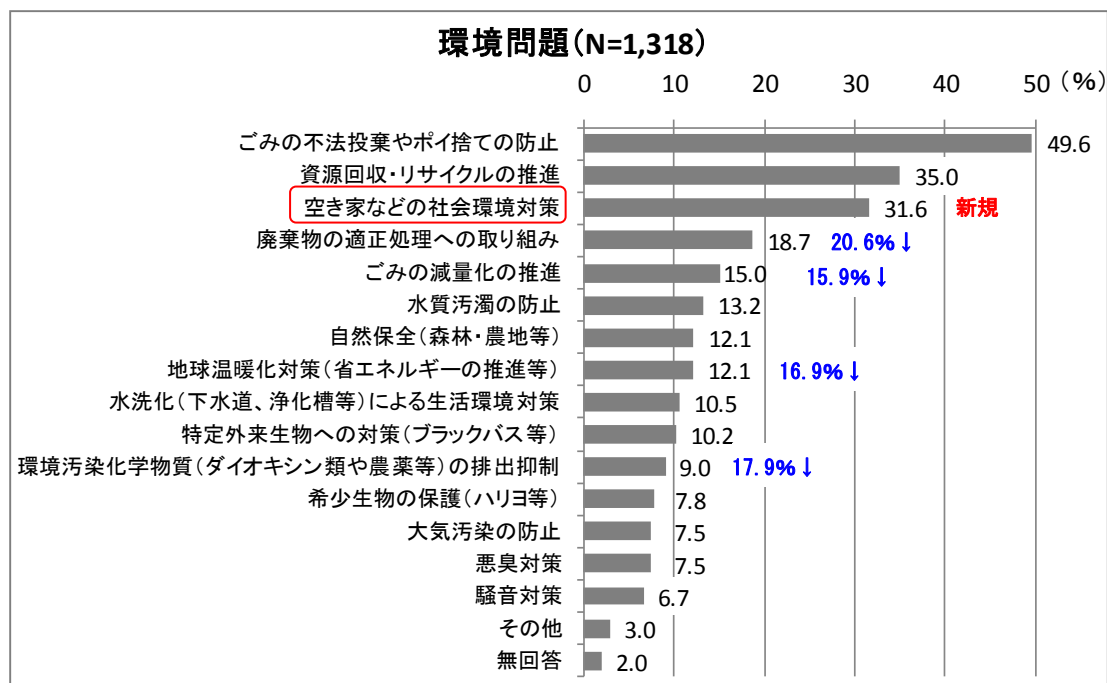
○学校における語学学習の強化、気軽に参加できる国際交流事業やイベントの開催など、国際交流のためのスキル向上や機会増大などが期待されている。



問 24 環境問題に関する施策

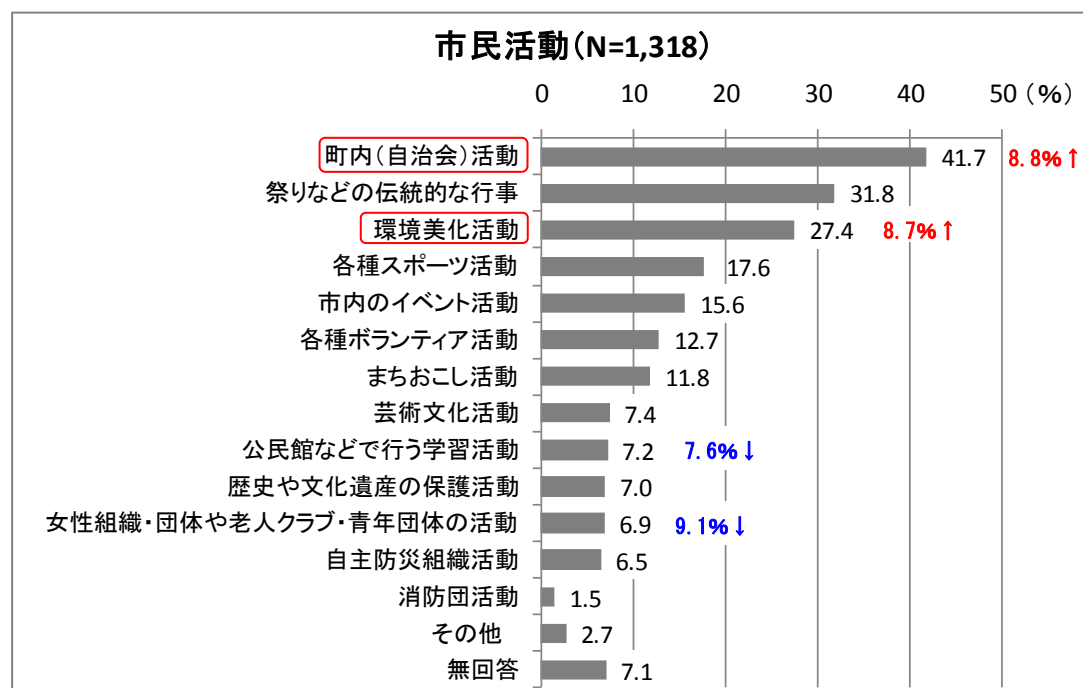
○ごみの不法投棄やポイ捨ての防止、資源回収・リサイクルの推進は、従来通り重視されている。また、空き家などの社会環境対策は最近の重要な課題と認識されている。

○ごみの処理や減量については、前回調査時より改善されたとの意識があると考えられる。



問 25 市民活動への参加意向

○町内(自治会)活動、祭りなどの伝統的な行事、環境美化活動などが重視されている。最近では、町内活動や環境美化活動といった、身近な地域活動が重視されてきていると考えられる。





海津市市民意識調査分析結果報告書

平成 28 年 2 月

海津市総務部企画財政課

〒503-0695 海津市海津町高須 515 番地

TEL : 0584-53-1111 (代表)

<http://www.city.kaizu.lg.jp/>